

時事経済情報 No. 77

2021年9月24日

福井県立大学客員教授

丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

中島 精也

目次

- I 米国経済
- II 欧州経済
- III 中国経済
- IV 日本経済
- V マーケット動向

I 米⼭国経済

1. Fedは11月にもQEの段階的縮小を決める

①9月21～22日のFOMCは量的緩和 (QE) の段階的縮小 (tapering) については昨年12月に「雇用の最大化と物価安定の2つの目標への本格的進展が見られるまで、国債は800億ドル/月、ローン担保証券は400億ドル/月の保有増加を続ける」としてきたが、今回「その後、経済は目標に向かって進展しており、**これが続けば、資産購入のペースダウンは正当化される**」と判断されるとした。FOMC後の記者会見でパウエル議長は本格的進展はほぼ実現しており、**taperingの時期につき次回11月のFOMCで決定される**見通しを述べた。あと、この刺激策は来年半ばで終了すると示唆している。

②FF金利は0～0.25%を維持、金利のフォワードガイダンスとして「労働市場が雇用の最大化に相応しい水準に到達し、インフレが2%まで上昇し、且つ暫くは2%をやや上回る軌道に乗るまで維持することが適当と考える」は前回と変わらず。

③「インフレがしつこく目標2%を下回って推移してきたので、FOMCは長期的に平均2%インフレ、そしてインフレ期待が2%にアンカーされるよう暫く2%をやや超えるインフレの実現を目指す」も前回と変わらず。

④FOMCメンバーの経済予測によれば、
(1) 物価は2021年が4.2%と前回6月予測の3.4%から大きく上方修正された。その後は2%強の予測。
(2) 経済成長率は2021年が5.9%と前回より▲1.1%の下方修正、その反動で2022年は3.8%と前回より+0.5%の上方修正。
(3) 失業率は2021年が4.8%と前回より+0.3%上方修正、その後は3.5%で推移と予測。



2. 米GDPはコロナ前のピークをようやく更新

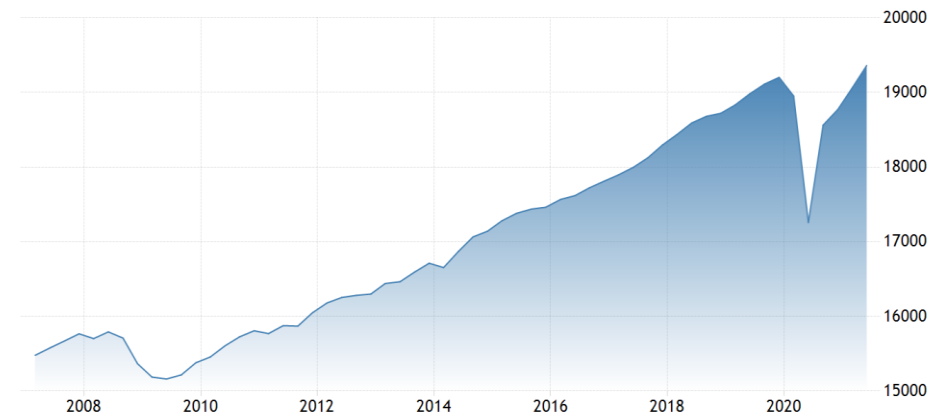
①4～6月期の実質GDP(二次推計)は19兆3,606億ドルとコロナ前のピーク(19年10～12月期19兆2,023億ドル)を上回る(右上図)。消費主導の成長で+6.6%(前期比年率、右下図)の伸び、前年比は+12.2%とコロナの反動で高い伸び。

②内需の寄与度は+6.80%、外需の寄与度は▲0.24%であった。

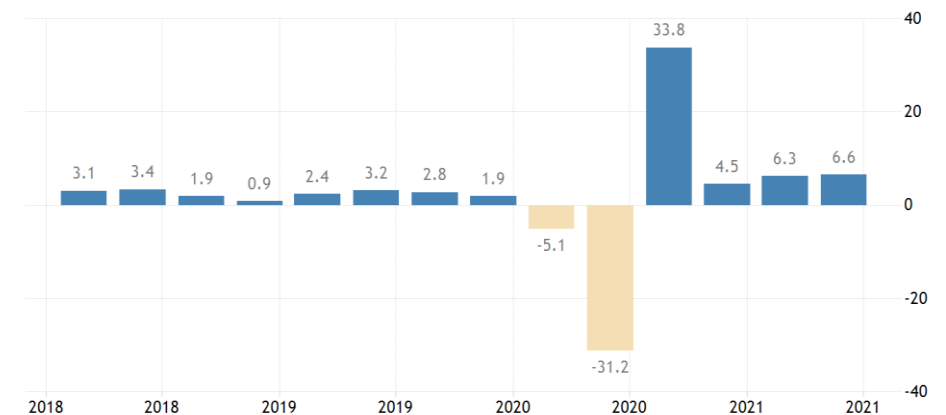
③個人消費の伸びは+11.9%(うちモノ+12.8%、サービス+11.3%)、設備投資は+9.3%、在庫投資の寄与度は▲1.3%。住宅投資の伸びは▲11.5%、政府支出は▲1.9%(連邦▲5.2%、地方+0.3%)

④輸出は+6.6%、輸入は+6.7%

⑤名目GDPの伸びは+13.2%、GDP物価指数は+6.1%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS

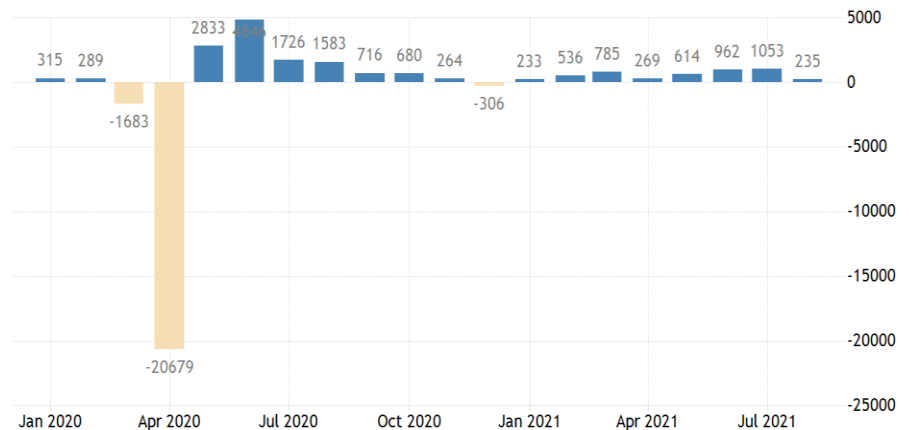
3. 米雇用回復はデルタ株で抑制される

①8月の雇用者数の前月比(右上図)は+23.5万人の増加と事前予想の+70万人を下回った。デルタ株の感染拡大が影響した模様。昨年2月のピークに比べ▲533.3万人とコロナ前に戻していない。

②業種別では専門・ビジネスサービス+7.4万人、運輸・倉庫+5.32万人、教育+4.02万人、製造業+3.7万人。デルタ株の影響で小売▲2.85万人、レジャー・接客は横ばい。

③失業率(右下図)は▲0.2ポイント低下して5.2%。労働参加率は前月と変わらず61.7%。

④時間当たり賃金は前月比+17セント上昇して30.73ドルに、前年比は+4.3%と前月より+0.2ポイント伸びが高まる。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS



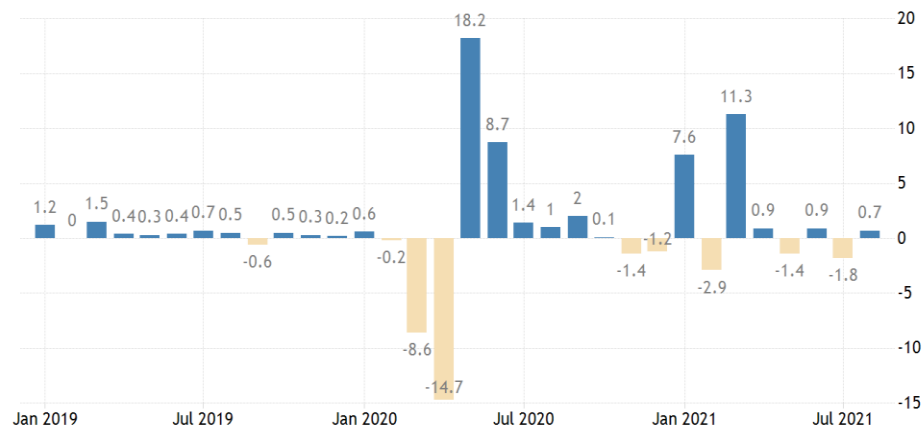
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS

4. 米国の小売売上高は前年の反動で大幅な伸び

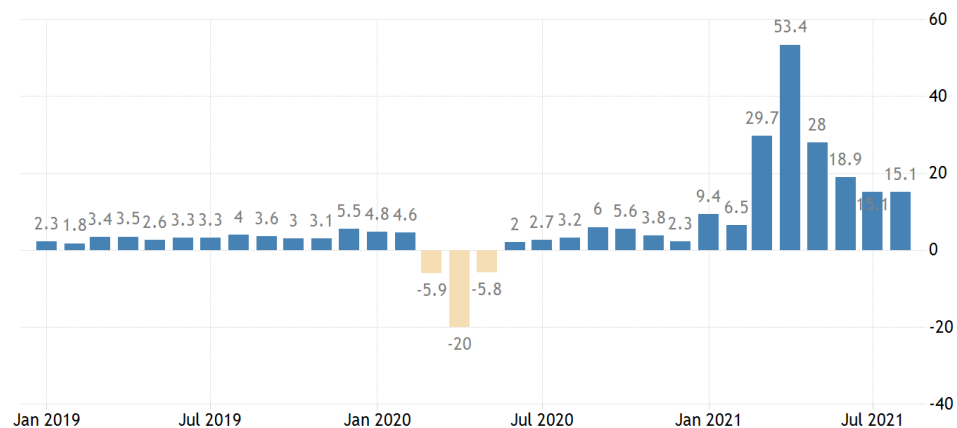
①8月の小売売上高は前月比(右上図)が+0.7%、前年比(右下図)は+15.1%。前年からの反動増が続く。

②業種別の前月比、前年比は

自動車	▲3.6%、	+10.7%
家具	+3.7%、	+15.6%
電気製品	▲3.1%、	+18.1%
建設資材園芸用品	+0.9%、	+6.3%
食料品店	+1.8%、	+5.7%
健康ケア	+0.2%、	+9.4%
ガソリンスタンド	+0.2%、	+35.7%
衣服アクセサリ	+0.1%、	+38.8%
スポーツ用品・趣味		
・書籍・音楽	▲2.7%、	+19.8%
大規模商業施設	+3.5%、	+15.5%
無店舗販売	+5.3%、	+7.5%
飲食業	0.0%、	+31.9%



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

5. 米消費者信頼感指数は回復のスピードが鈍い

①9月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、71.0で前月比+0.7ポイントの上昇。現状指数は78.5から77.1に低下したが、期待指数は65.1から67.1に上昇。

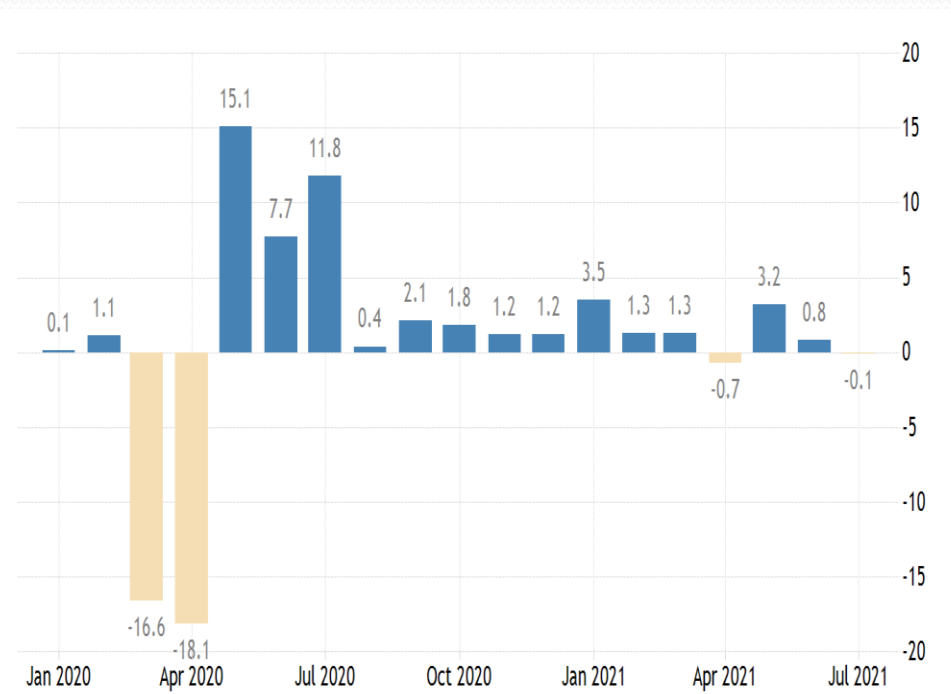
②8月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は113.8と前月比▲11.3ポイントと2ヶ月連続の低下。現状指数は7月157.2 → 8月147.3に低下、期待指数は7月103.8 → 8月91.4に低下。



6. 米耐久財新規受注は緩やかな回復傾向

①7月の耐久財新規受注(速報)は前月比(右図)▲0.1%の低下、前年比は+16.7%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比+0.7%、前年比+15.2%、国防除く耐久財新規受注は前月比▲1.2%、前年比+17.5%。

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比0.0%、前年比+14.7%。



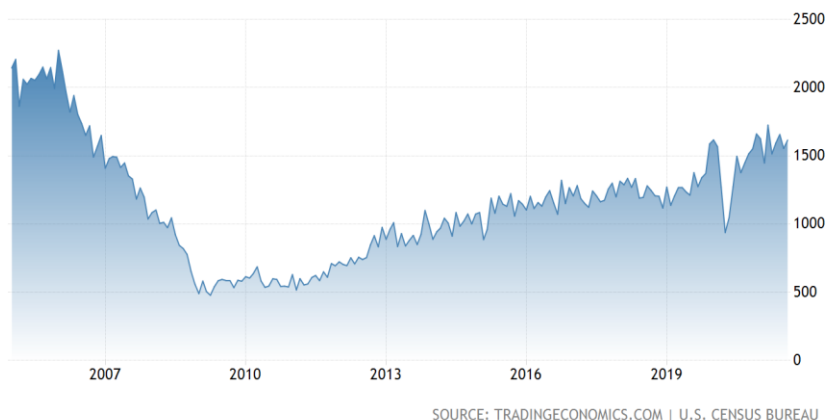
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

7. 米住宅統計は緩やかな上昇トレンド

①8月の米住宅着工戸数は年率161.5万戸（右上図）、前月比は+3.9%、前年比は+17.4%。一戸建は前月比▲2.8%、前年比は+5.2%、集合住宅（5件以上）は前月比+21.6%、前年比は+60.1%。地域別で前月比、前年比で北東部+167.2%、+105.7%、中西部+11.4%、▲14.5%、南部+1.4%、+29.2%、西部▲21.1%、▲7.0%。

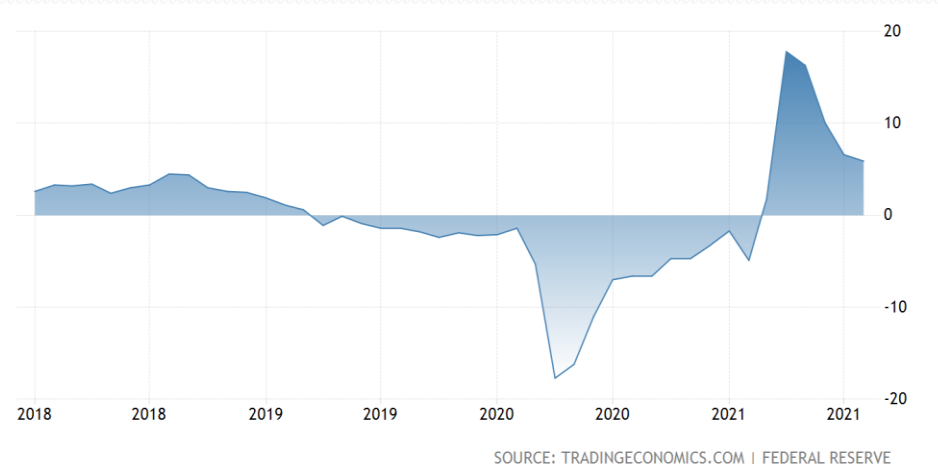
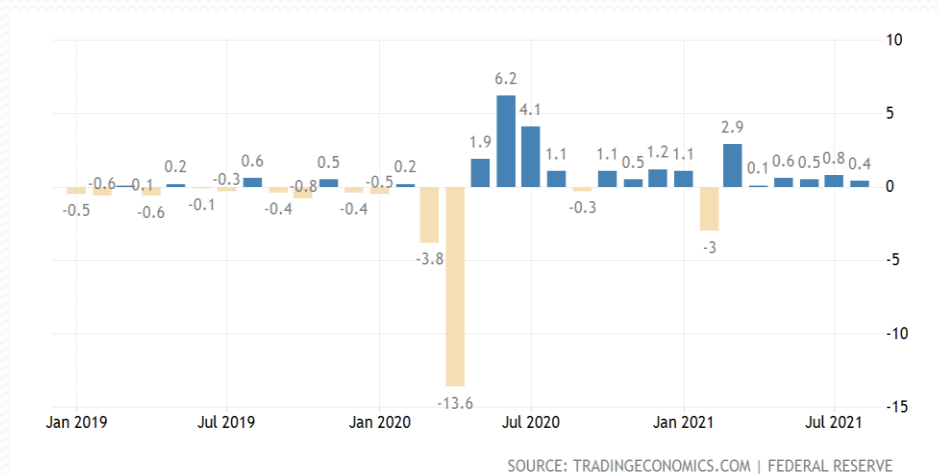
②6月のケースシラー住宅価格指数は前月比（季調済）は+2.2%、前年比+18.6%。

③7月の新築住宅販売戸数（右下図）は年率70.8万戸、前月比+1.0%、前年比は▲27.2%。うち地域別の前月比、前年比は北東部▲24.1%、▲47.6%、中西部▲20.2%、▲44.1%、南部+1.3%、▲28.4%、西部+14.4%、▲11.9%。販売在庫比率は6.2ヶ月と前月より+0.2ヶ月上昇



8. 米鋁工業生産は緩やかな回復軌道を歩む

- ①8月の鋁工業生産指数は前月比+0.4%（右上図）。前年比は+5.9%（右下図）。
- ②鋁業の前月比は▲0.6%、前年比は+10.3%、公益事業の前月比は+3.3%、前年比+2.1%。
- ③製造業の前月比は+0.2%、前年比は+5.9%。うち自動車及び部品はそれぞれ+0.1%、▲4.9%、コンピュータ・電子機器は+1.2%、+10.0%、航空機は+0.1%、+14.7%、金属製品+0.7%、+5.5%、食料・飲料・タバコは+0.4%、+0.3%、化学は▲0.5%、+7.2%。
- ④設備稼働率指数（製造業）は76.7と前月を+0.1ポイント上回るが、長期平均78.2を▲1.5ポイント下回る。



9. 米国の輸出入はコロナ前に戻す

①7月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は▲701億ドルと前月比32億ドルの赤字縮小。

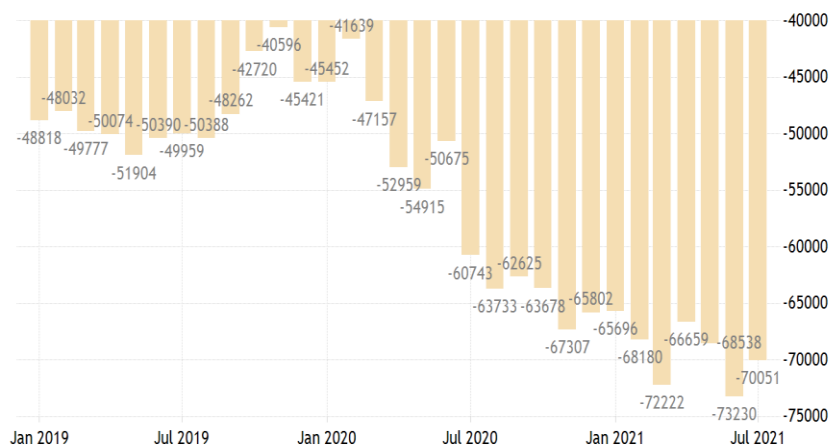
②財・サービス輸出(右上図)は前月比+28億ドルの2,128億ドル(前年比+24.5%)。前月比で資本財+10億ドル、消費財+8億ドル、自動車・部品+6億ドル。

③財・サービス輸入(右下図)は前月比▲4億ドルの2,829億ドル(前年比+22.1%)。前月比で消費財▲21億ドル、工業用原材料▲17億ドル、自動車・部品+11億ドル。

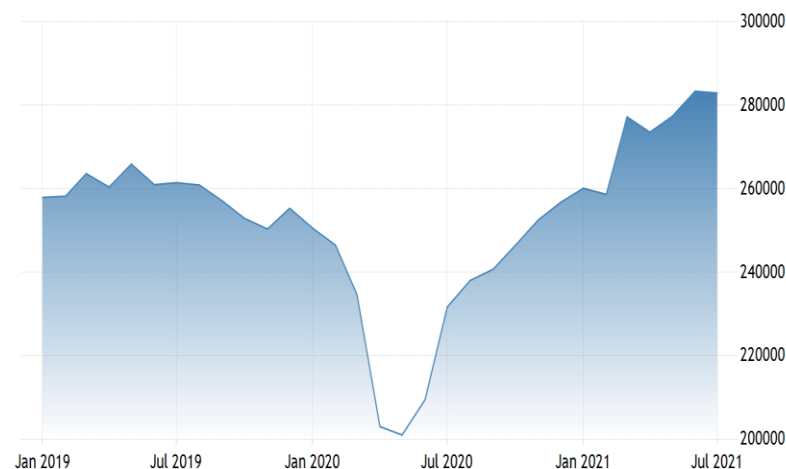
④対中輸出は117.2億ドルで前年比+29.0%、対中輸入は403.68億ドルで前年比▲0.7%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS (BEA)



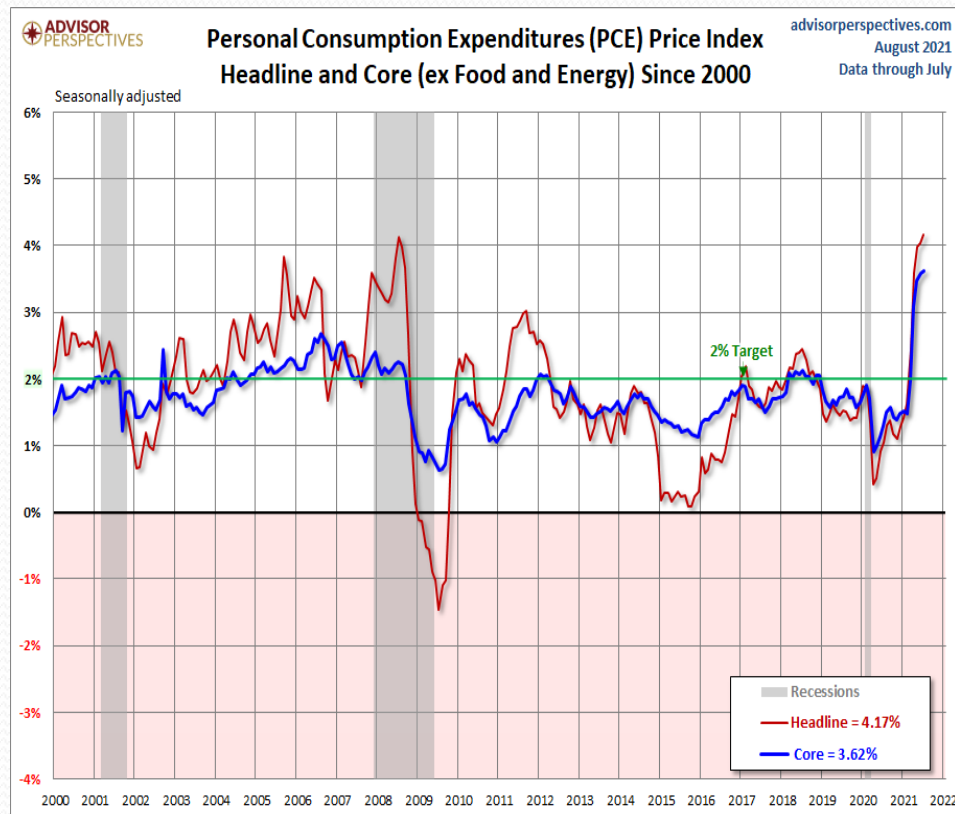
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

10. 米PCE物価指数は需給タイトで高い伸び続く

①7月のPCE(個人消費支出)総合物価指数の前年比(右図赤線)は+4.2%と前月より+0.2ポイント上昇。前月比は+0.4%。

②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比(右図青線)は+3.6%と前月と変わらず。前月比は+0.3%。

③財価格の前年比+5.4%、前月比は+0.5%、サービス価格の前年比は+3.5%、前月比は+0.4%。エネルギー価格の前年比+23.6%、前月比+1.6%。

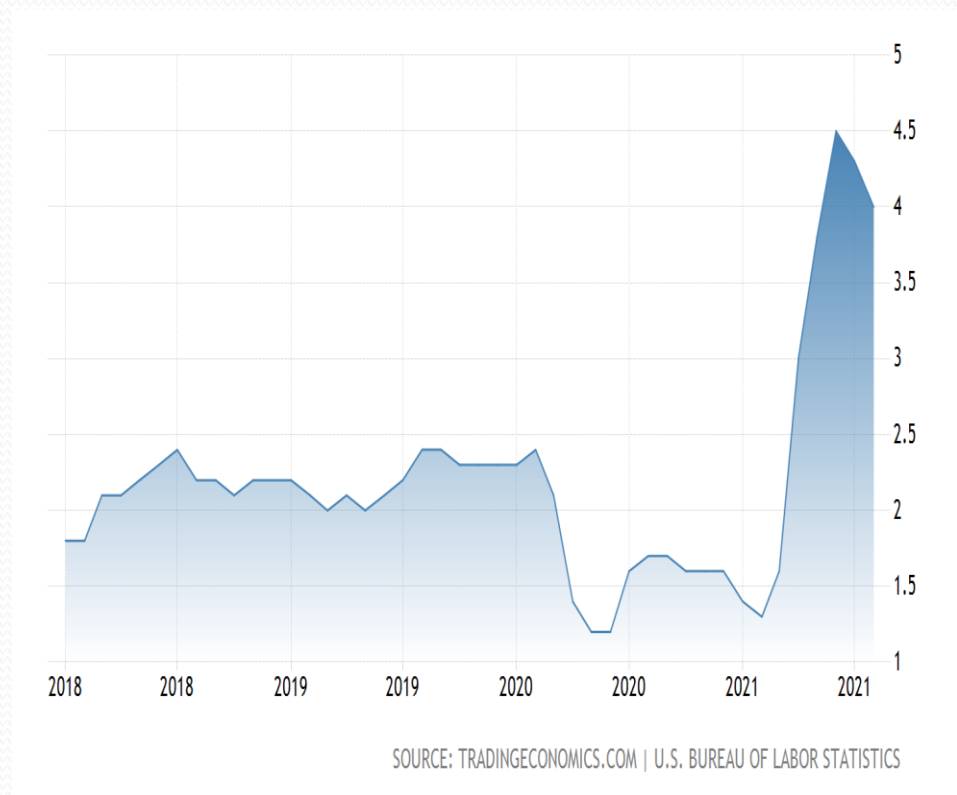


11. 米消費者物価は依然として高い伸び

①8月のCPI(消費者物価指数)総合の前年比は5.3%と前月より▲0.1ポイント伸びが低下。前月比は+0.3%。

②エネルギーの前年比は+25.0%(うちガソリン+42.7%、燃料油+33.2%、電気+5.2%、都市ガス+21.1%)、前月比は2.0%(うちガソリンは+2.8%、燃料油は▲2.1%、電気+1.0%、都市ガス+1.6%)。

③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比(右図)は+4.0%と前月を▲0.3ポイント下回る。前月比は+0.1%。中古車価格の前年比は+31.9%。



12. 米製造業PMI指数は高水準で推移

①米サプライマネジメント協会
(ISM) 8月製造業PMI指数(右図赤線)
は前月の59.5から+0.4ポイント上
昇して59.9。項目別前月比では
新規受注+1.8ポイント

生産+1.6

雇用▲3.9

供給者納入▲3.0

在庫+5.3

顧客在庫+5.2

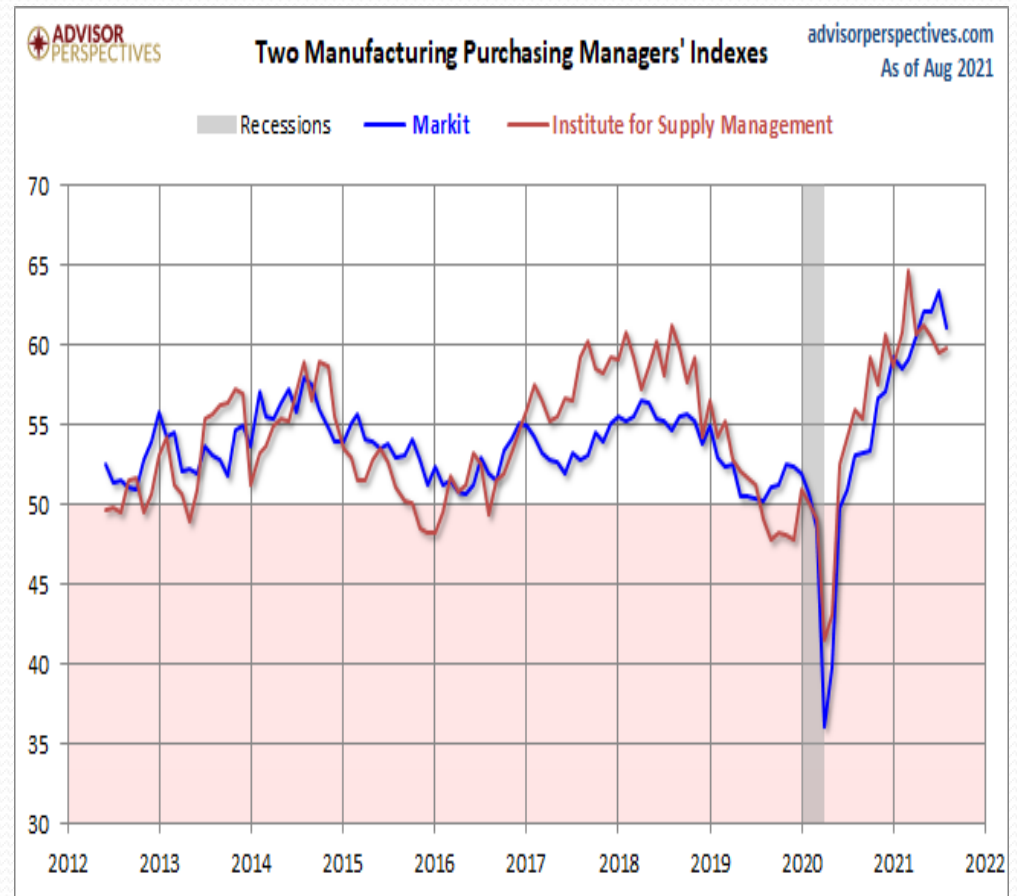
価格▲6.3

受注残+3.2

新規輸出受注+0.9

輸入+0.6。

②8月Markit製造業PMI指数(右図青
線)は61.1と前月比▲2.3の低下。





II 欧州経済

1. ECBはPEPPの購入ペースを緩めることを決定

(1) ECB理事会は9月9日の定例理事会で以下の決定を下した。変更された政策は

① Pandemic Emergency Purchase Programme (PEPP) は1兆8,500億ユーロの枠内で2022年3月末まで、いずれにせよコロナウィルス危機が終わるまで続けるが、**過去の2四半期（3月以降は月800億ドル）よりも購入ペースを緩める**。満期が来たものは少なくとも2023年末まで元本を再投資。将来のPEPP停止は金融政策を損なわないよう管理する。**但し、ラガルド総裁はこれは tapering (量的緩和の段階的縮小) ではないと述べた。**

(2) 従来の政策を踏襲したのは以下の通り

② 政策金利は現状維持。預金ファシリティ金利▲0.5%、主要レポ金利0%、限界貸出ファシリティ金利0.25%。政策金利のフォワードガイダンスは、インフレが見通し期間中に十分早く2%目標に達し、かつ残りの期間も2%を維持すると判断するまで、政策金利は現行かそれより低い水準に留まる。

③ 現行のネットで毎月200億ユーロの資産購入プログラム (APP) を継続。緩和的な政策金利を補強することが必要な限り継続し、利上げスタートの直前に終わる。APPで購入した資産は満期が来ても元本は再投資する。これは利上げがスタートした後もしばらく続ける。

④ ECBは各種レポを通じて、潤沢に資金を供給し続けるが、特に、TLTRO-III (金融政策の伝達経路を改善することを目的とした長期資金供給オペ) で銀行部門に潤沢に資金が供給されており、それは企業や家計への銀行貸出を支援する役割をはたす。



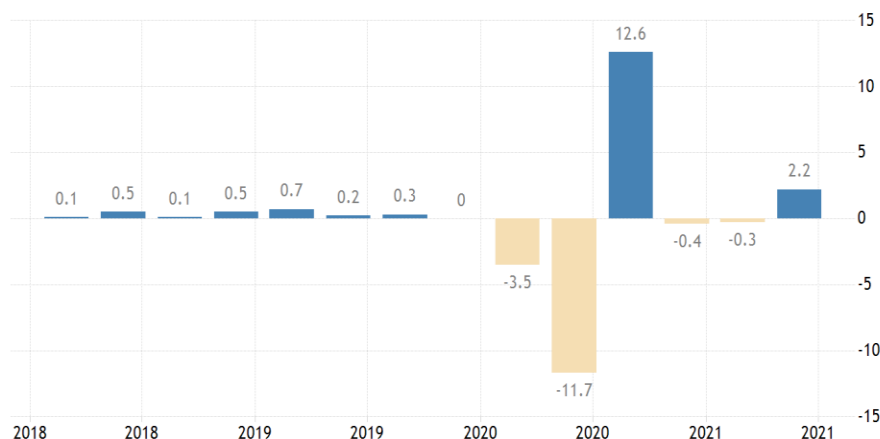
2. ユーロ圏GDP前期比は3期ぶりにプラス成長

①4～6月期のユーロ圏GDP(確報)は前期比(右上図)+2.2%と3四半期ぶりのプラス成長。前年比(右下図)は前年の反動増で+14.3%と6四半期ぶりのプラス成長。

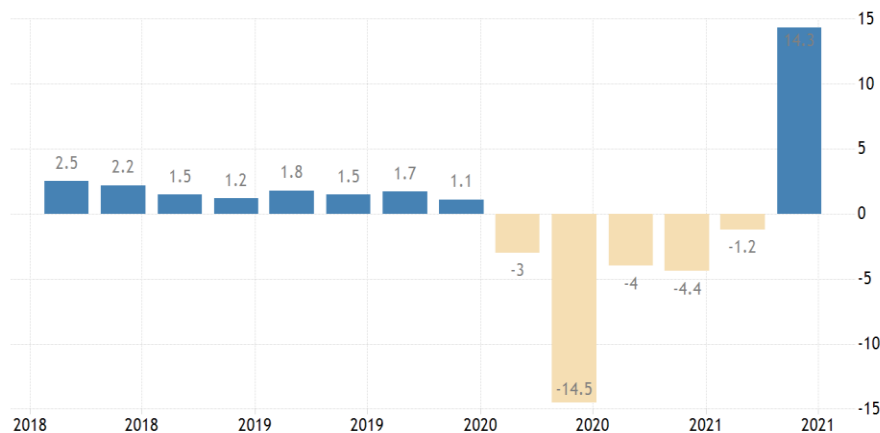
②前期比で独+1.6%、仏+1.1%、伊+2.7%、スペイン+2.8%、ポルトガル+4.9%、オーストリア+3.6%、ベルギー+1.7%。

③前年比で独+9.4%、仏+18.7%、伊+17.3%、スペイン+19.8%、ポルトガル+15.5%、オーストリア+11.9%、ベルギー+14.9%。

④BREXITした英国は前期比+4.8%、前年比+22.2%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



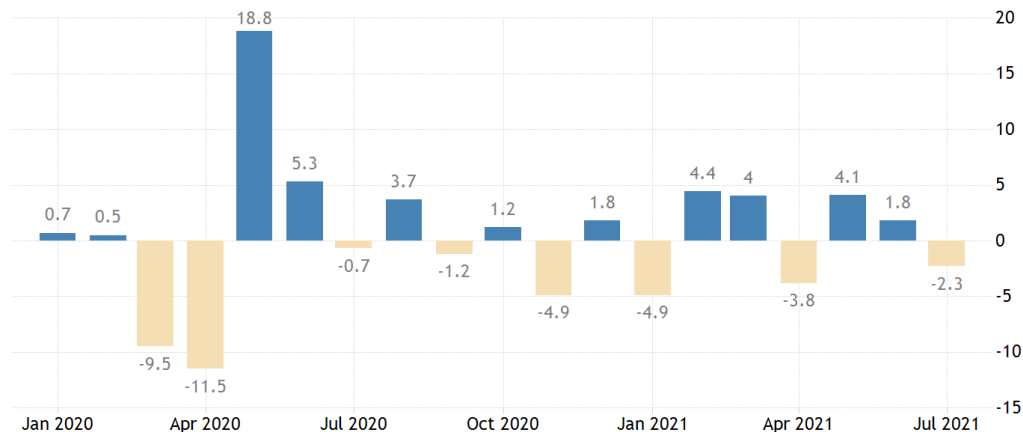
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

3. ユーロ小売売上高の伸びは平時に戻る

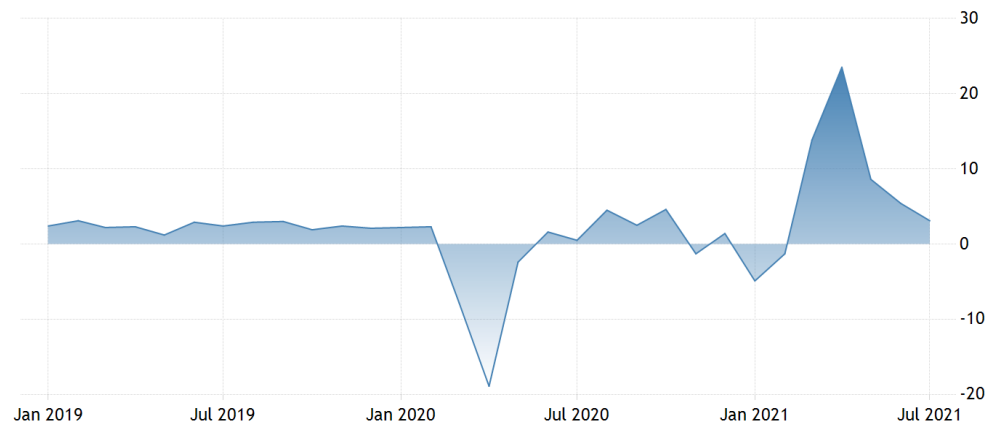
①7月のユーロ圏小売売上高（数量ベース、季調済）は前月比▲2.3%（右上図）、前年比（右下図）は+3.1%。

②商品別前月比で食料・飲料・タバコ▲0.7%、非食料製品▲3.5%（うち通信販売・インターネット▲7.3%）、自動車燃料▲1.6%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ+1.1%、非食料製品+4.8%（うち通信販売・インターネット+11.2%）、自動車燃料+0.6%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

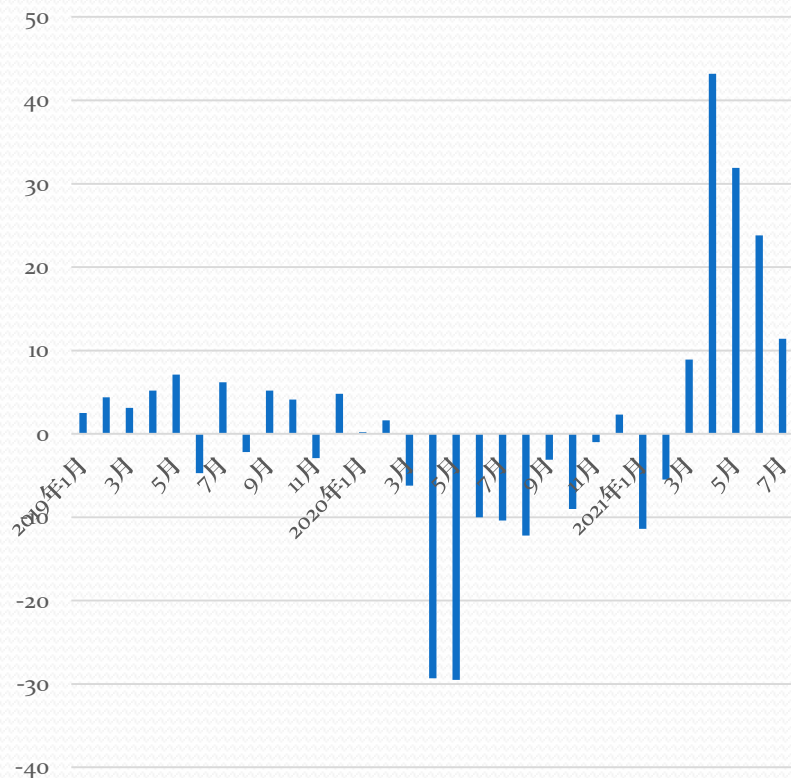


SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

4. ユーロ圏の輸出、輸入共に伸びは減速

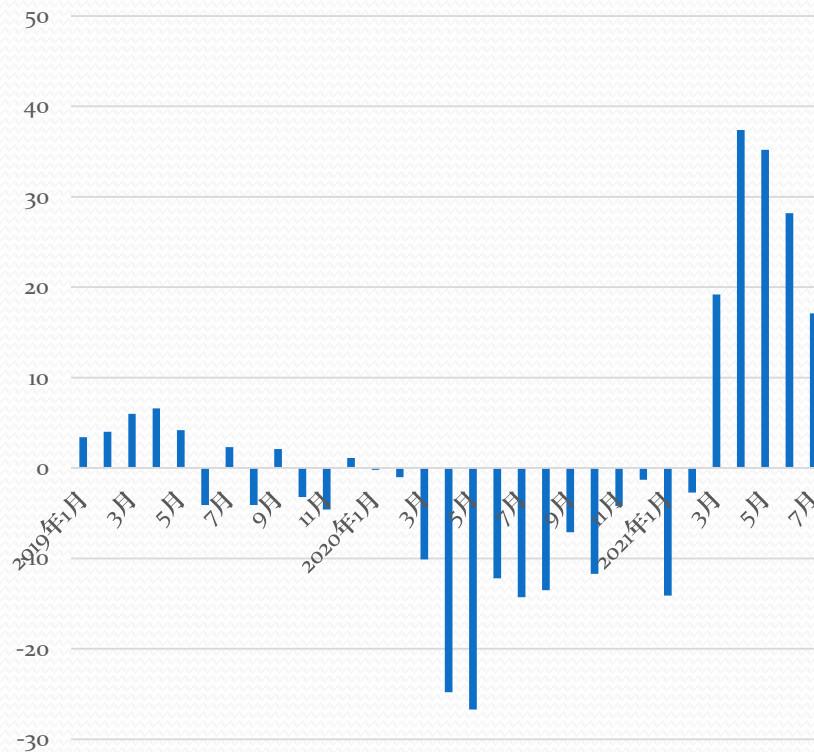
①7月の輸出の伸びは前年比+11.4%

ユーロ圏の輸出の伸び(前年比、%)



②7月の輸入の伸びは前年比+17.1%

ユーロ圏の輸入の伸び(前年比、%)



5. ユーロ圏の鋳工業生産は前年の反動が残る

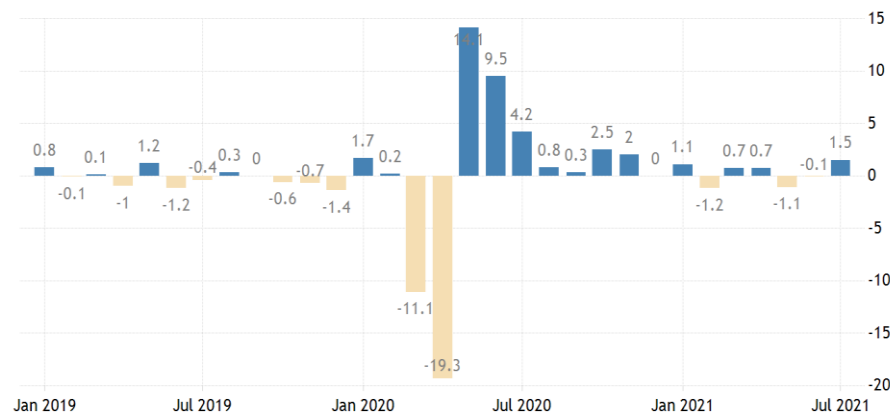
①7月のユーロ圏鋳工業生産は前月比(右上図)+1.5%、前年比(右下図)は+7.7%と前年の反動が残る高い伸び。

②項目別の前月比は中間財+0.4%、エネルギー▲0.6%、資本財+2.7%、耐久消費財+0.6%、非耐久消費財+3.5%。

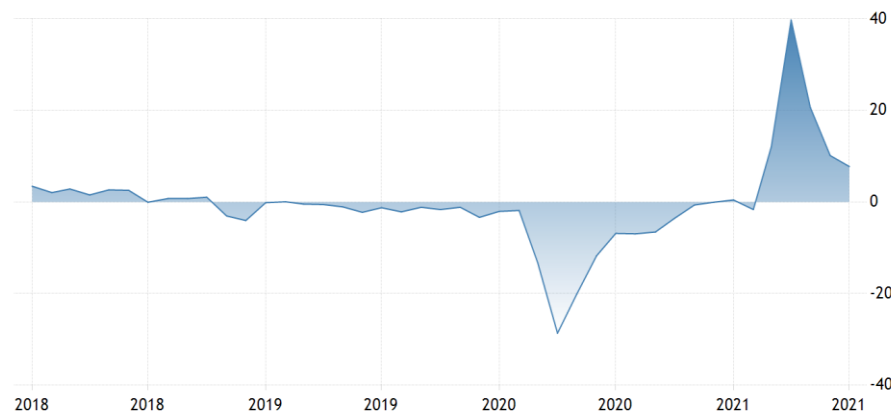
③前年比では中間財+11.2%、エネルギー+1.0%、資本財+5.9%、耐久消費財+9.8%、非耐久消費財+10.1%。

④国別の前月比ではドイツ+1.0%、仏+0.3%、伊+0.8%、スペイン+0.3%、ポルトガル+3.5%、オランダ+1.4%、ギリシャ+2.4%。

⑤前年比ではドイツ+6.2%、仏+4.4%、伊+7.0%、スペイン+3.2%、ポルトガル▲0.1%、オランダ+9.7%、ポーランド+12.5%、ハンガリー+10.2%、ギリシャ+8.0%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

6. ユーロ圏の失業率は再び低下傾向

①7月のユーロ圏失業率(右図)は7.6%と前月より▲0.2ポイントの低下。前年同月より▲0.8ポイント低下。

②最低はチェコの2.8%、最高はギリシャの14.6%。

③前年7月との比較では独4.0%→3.6%、仏8.6%→7.9%、伊は10.1%→9.3%、オランダ4.5%→3.1%、スペイン16.3%→14.3%、オーストリア6.8%→6.2%、ポルトガル8.1%→6.6%、アイルランド6.7%→6.5%。

④英国の失業率は4.6%と前月より▲0.1ポイント低下(英国統計局)。なお、英国が移行期を終えてEUから完全離脱したため、EU統計局(Eurostat)は英国の数値を掲載しなくなった。



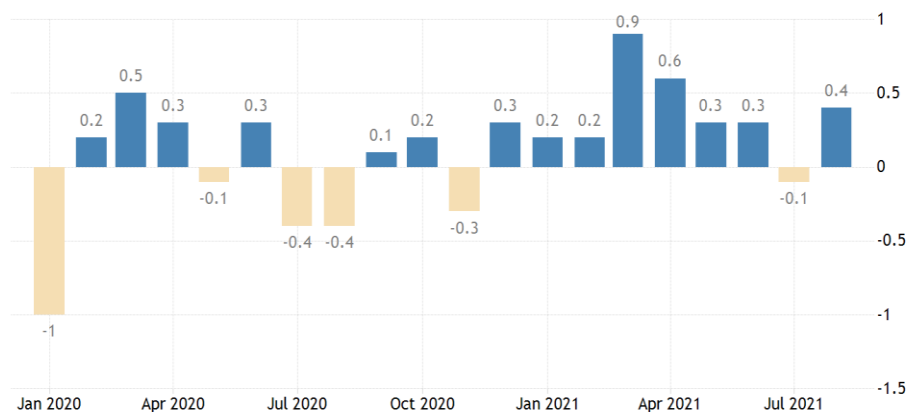
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

7. ユーロ圏のインフレ加速は前年の反動

①8月のユーロ圏消費者物価の前年比(右下図)は+3.0%、前月比は+0.4%(右上図)

②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比は+1.6%、前月比は+0.3%。

③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは6月+0.5%→7月+1.6%→8月+2.0%。エネルギーは+12.6%→+14.3%→+15.4%。非エネルギー工業品+1.2%→+0.6%→+2.6%。サービス+0.7%→+0.9%→+1.1%。



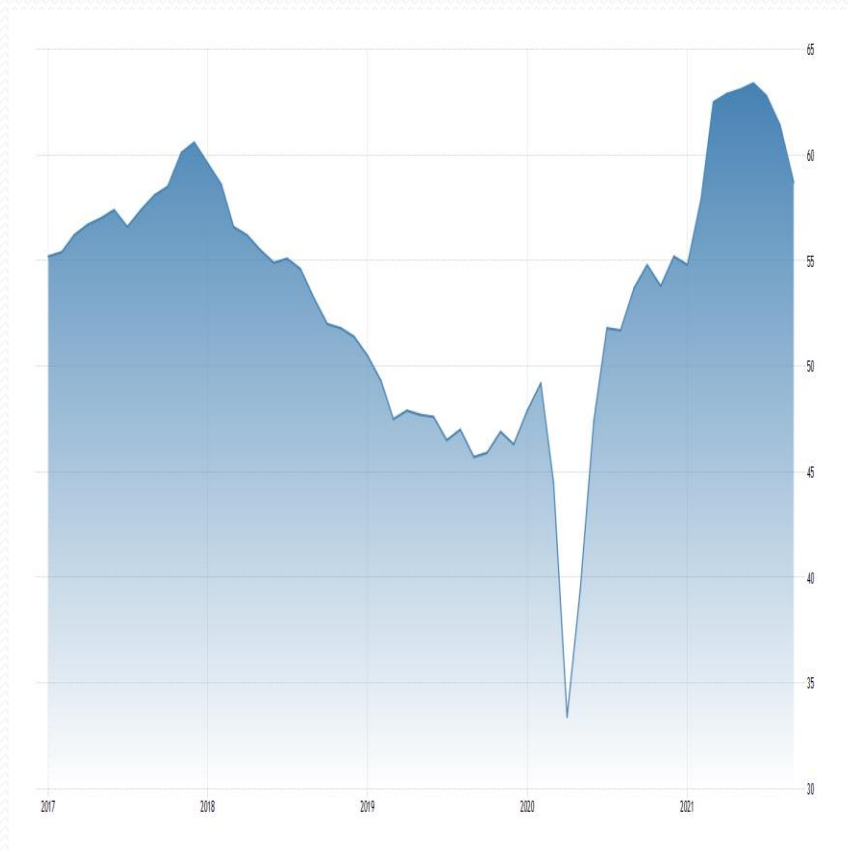
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



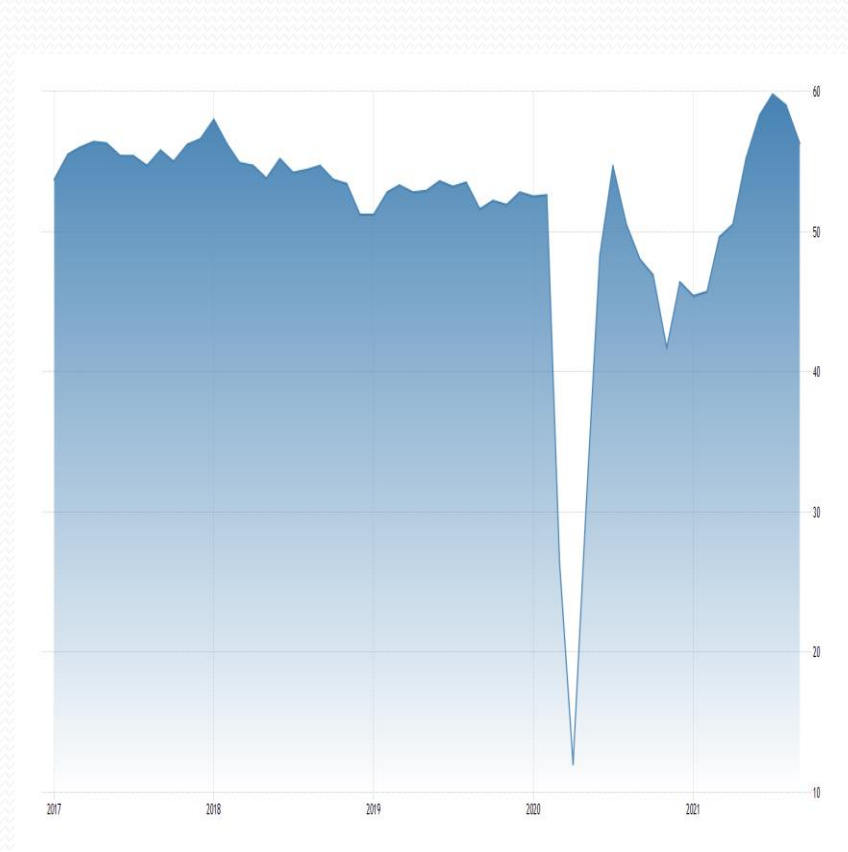
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

8. ユーロ圏PMIは高水準だが頭打ち

①製造業PMIは8月61.4→9月58.7



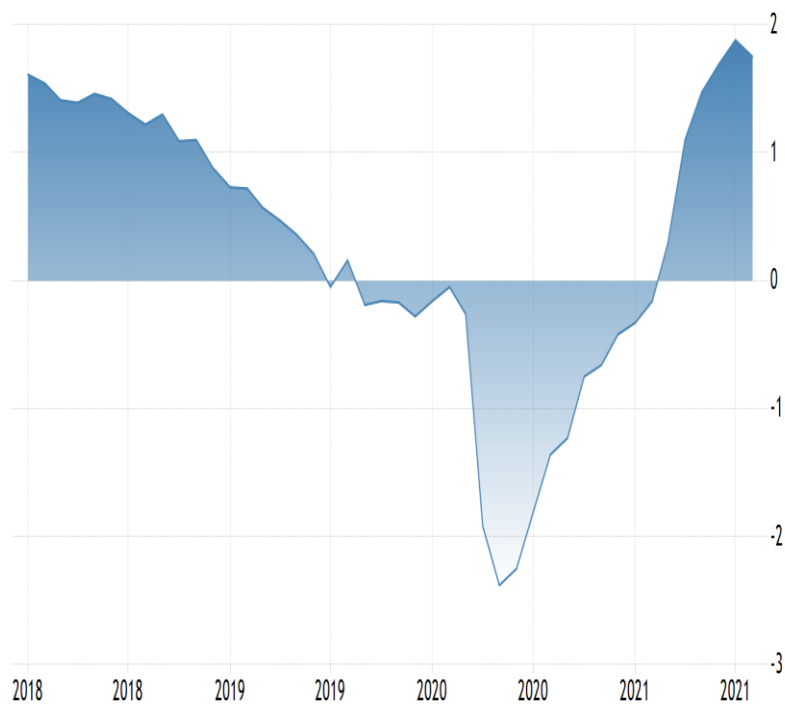
②サービス業PMIは8月59.0→9月56.3



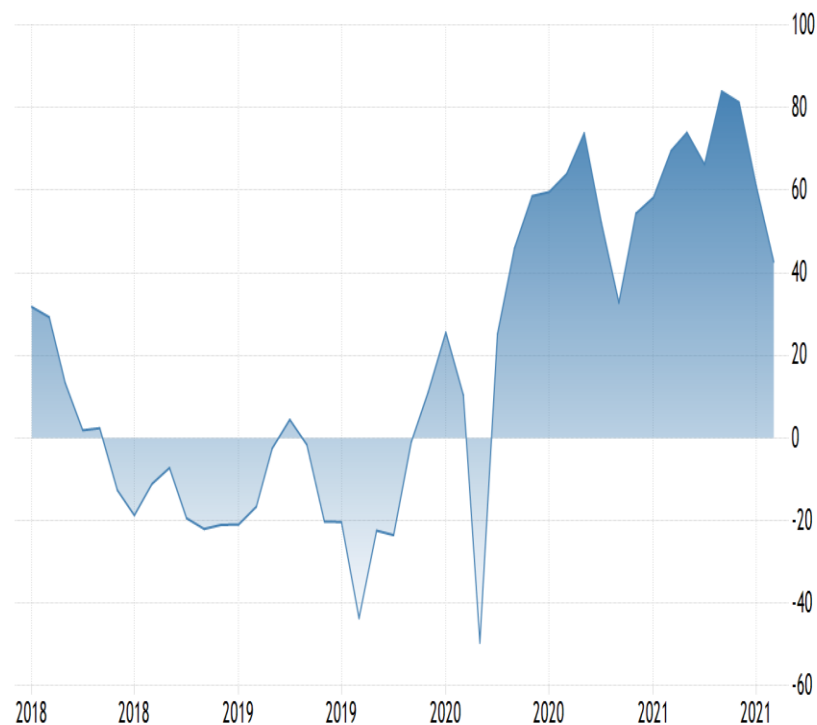
9. ユーロ圏の景気指数は頭打ちを示す

①8月のユーロ圏業況指数 (EU委員会) は +1.75で前月比▲0.13ポイント低下。

②9月のユーロ圏ZEW景況感指数は前月比▲11.6 ポイント低下して+31.1。



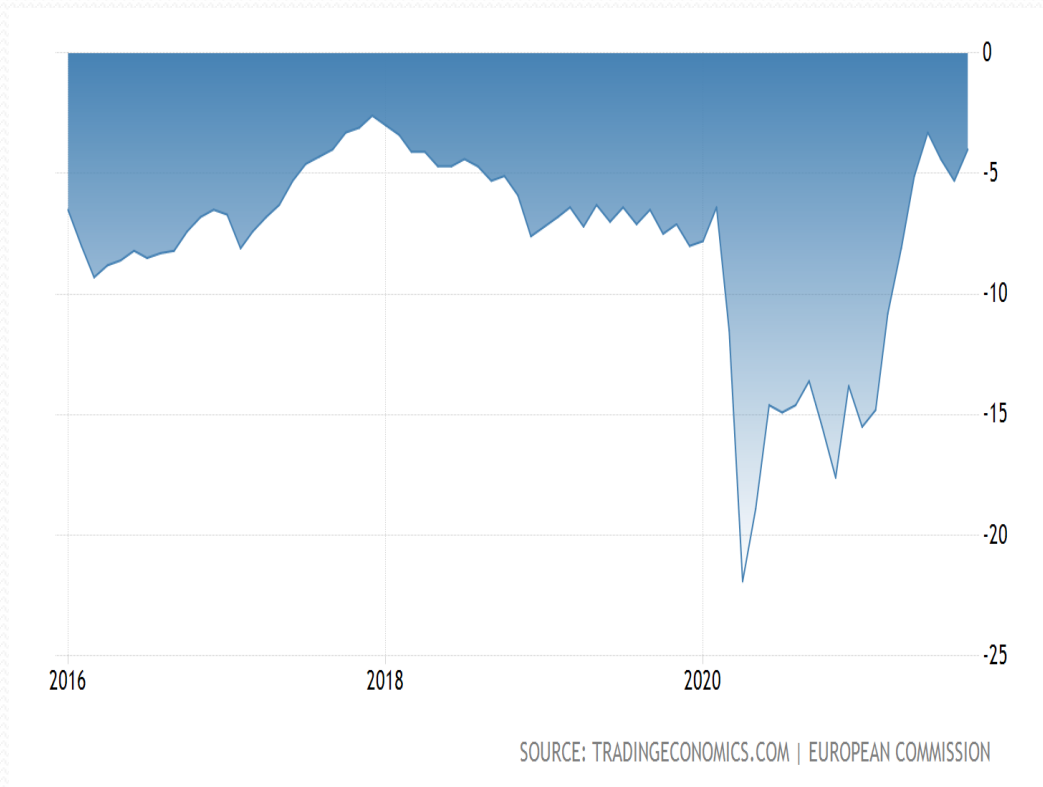
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | EUROPEAN COMMISSION



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | CENTRE FOR EUROPEAN ECONOMIC RESEARCH (ZEW)

10. ユーロ圏消費者信頼感指数は改善傾向

欧州委員会が発表
した9月のユーロ圏
消費者信頼感指数
(右図)は前月より
+1.3ポイント上昇
して▲4.0。



Ⅲ 中国經濟

1. 中国恒大集団のデフォルト懸念で緊張

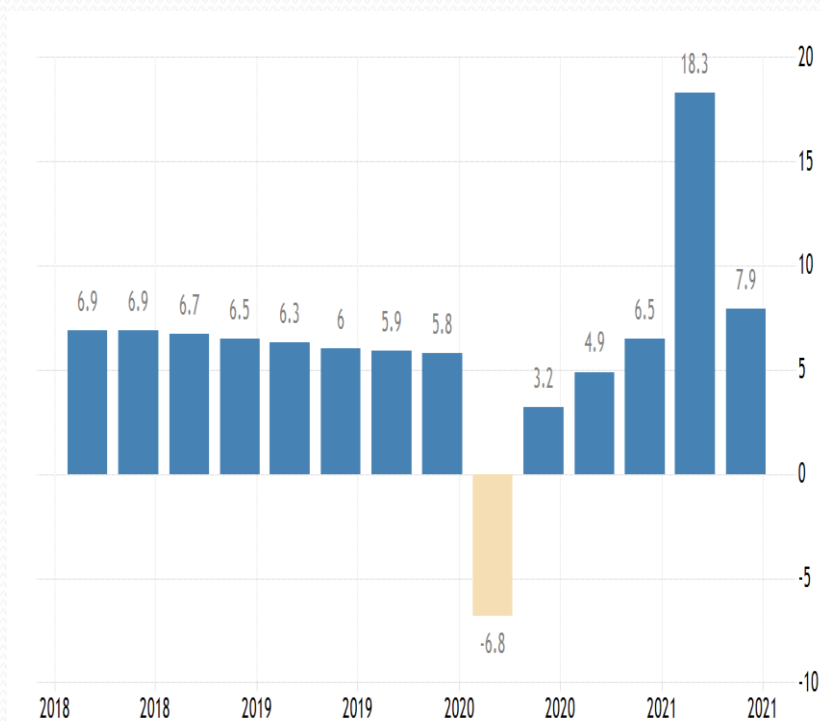
- ①中国の不動産大手「恒大集団」の資金繰り悪化が表面化して、利払い不能などデフォルト懸念から内外のマーケットが動揺。
- ②恒大集団は33兆円の巨額負債を抱えており、デフォルトが起きれば、融資をしている中国の国有銀行にも波及して金融危機に進展するリスクがある。
- ③現時点では利払いが実施されているようだが、断続的に到来する利払い期限を無事に乗り切れるのか不安が募っており、当局の対応が注目される。



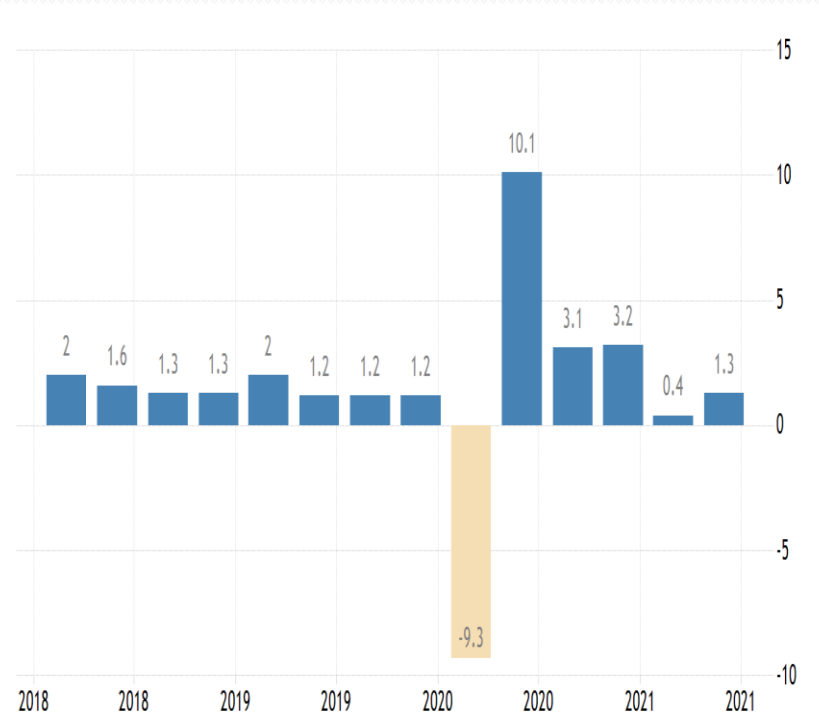
2. 中国の4～6月期GDPは徐々に潜在成長軌道に回帰

①前年比は+7.9%と徐々に巡航速度へ

②前期比は+1.3%とやや戻す



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



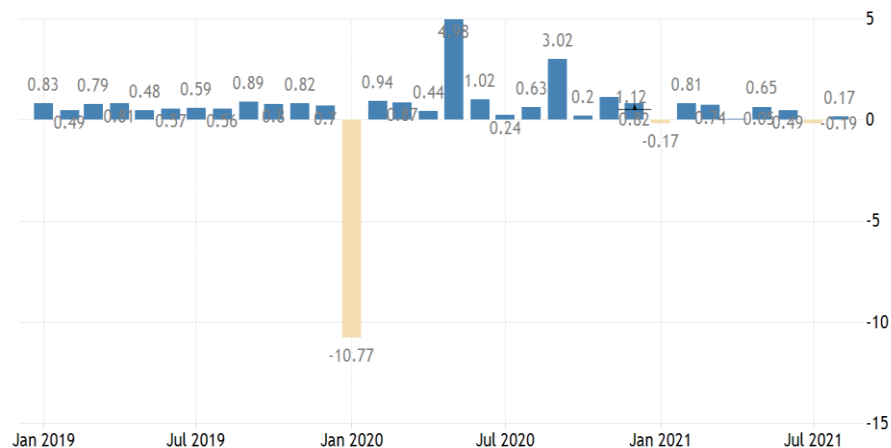
SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

3. 中国の個人消費はコロナ再感染で急減速

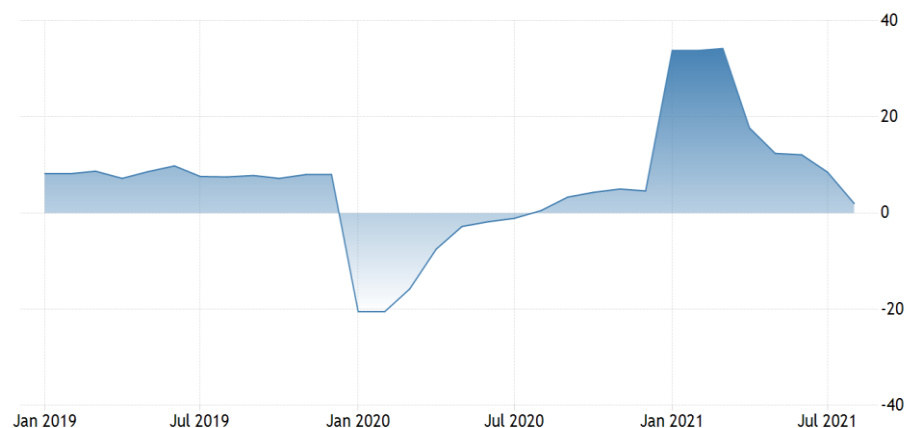
①8月の小売売上高(右下図)は前年比+2.5%。前月比(右上図)は+0.17%。

②商品別の前年比は以下の通り

	6月	7月	8月
通信機材	+15.9% →	+0.1% →	▲14.9%
自動車	+4.5% →	▲1.8% →	▲7.4%
建設資材	+19.1% →	+11.6% →	+13.5%
家具	+13.4% →	+11.0% →	+6.7%
家庭電器	+8.9% →	+8.2% →	▲5.0%
宝飾品	+26.0% →	+14.3% →	+7.4%
化粧品	+13.5% →	+2.8% →	0.0%
石油製品	+21.9% →	+22.7% →	+13.1%
衣類	+12.8% →	+7.5% →	▲6.0%
事務用品	+25.9% →	+14.8% →	+20.4%
医薬品	+8.5% →	+8.6% →	+10.2%
日用品	+14.0% →	+13.1% →	▲0.2%
合計	+12.1% →	+8.5% →	+2.5%



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

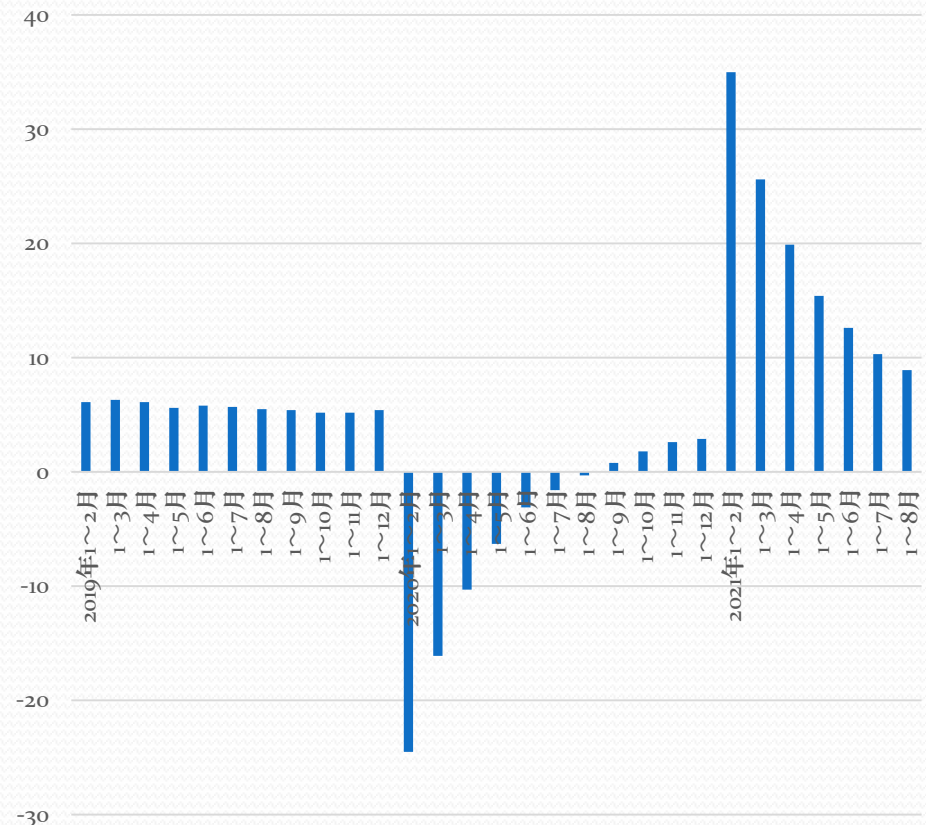


SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

4. 中国の固定資産投資の伸びは徐々に減速

- ①1～8月累計の固定資産投資は前年比+8.9%(右図)のプラス。
- ②民間投資は+11.5%、公共投資の伸びは+6.2%。
- ③鉱業は+6.7%。製造業+15.7%、うち食品製造+8.8%、紡績業+13.9%、化学+22.6%、医薬+15.1%、非鉄金属+10.5%、金属製品+14.1%、自動車製造▲4.4%、鉄道・船舶・航空+30.2%、電気機械+21.3%、コンピュータ・通信+24.9%。電力・ガス・水道は+1.1%、鉄道運輸は▲4.8%、道路運輸は+2.1%、水利環境公共施設+1.8%。

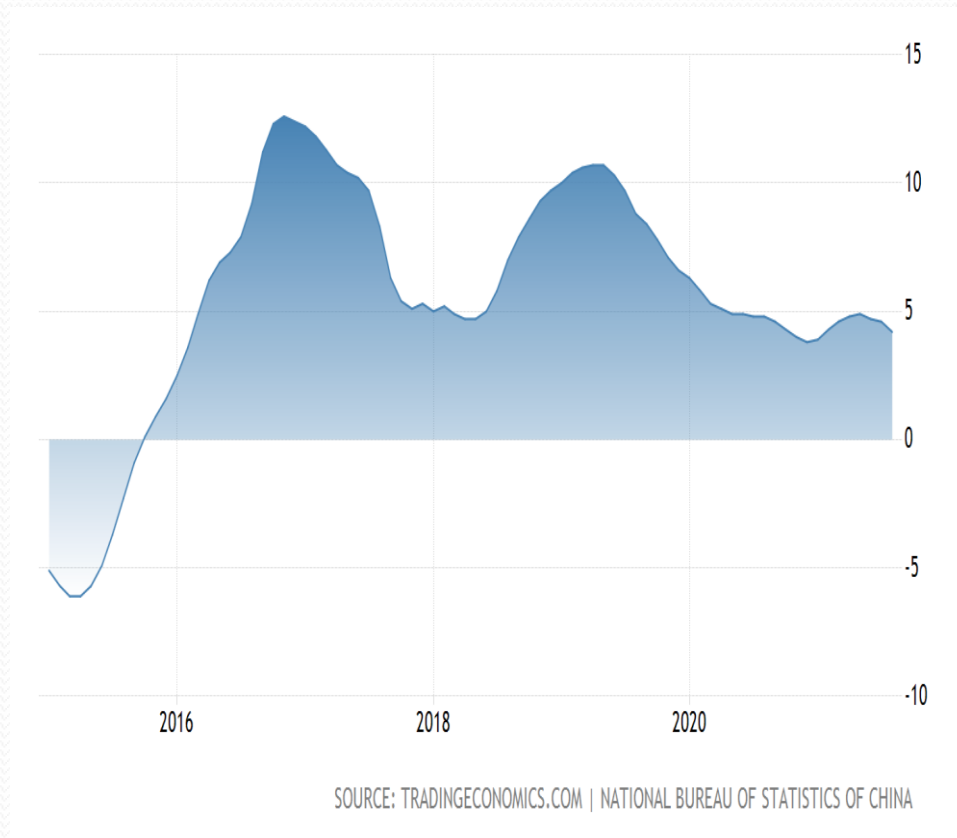
中国の固定資産投資(前年比、%)



5. 中国住宅価格は前月比で20都市が下落

①8月の70都市新築住宅価格は前月比+0.2%、前年比(右図)は+4.2%。前月比で上昇した都市が46都市、下落したのは20都市、横ばいは4都市だった。

②都市別の前年比では
北京+4.9%、大連+6.5%
長春+0.6%、上海+4.3%
南京+4.8%、武漢+6.4%
広州+9.8%、深圳+3.9%
成都+4.2%、西安+7.7%

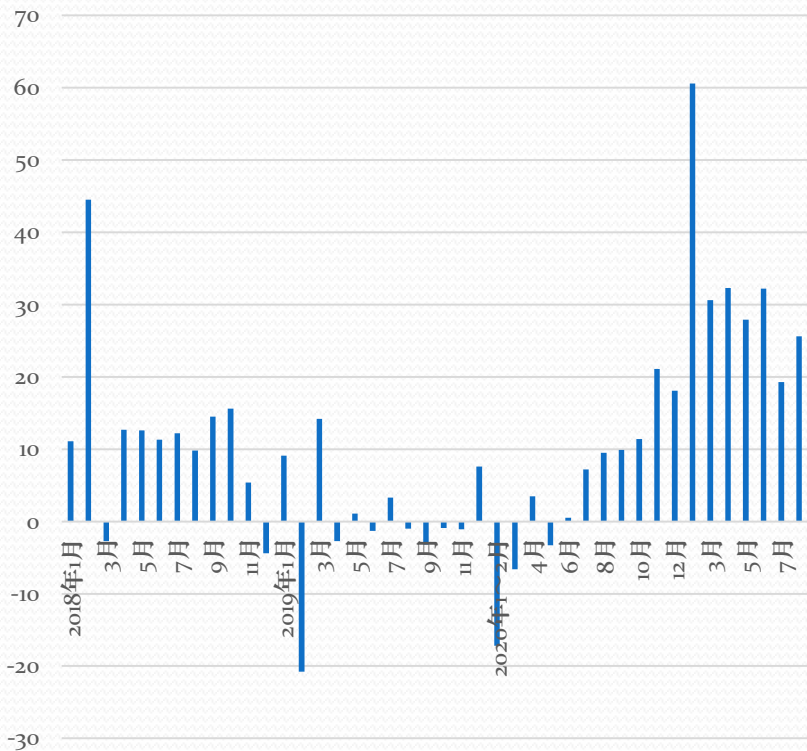


6. 中国の輸出入ともに高い伸び

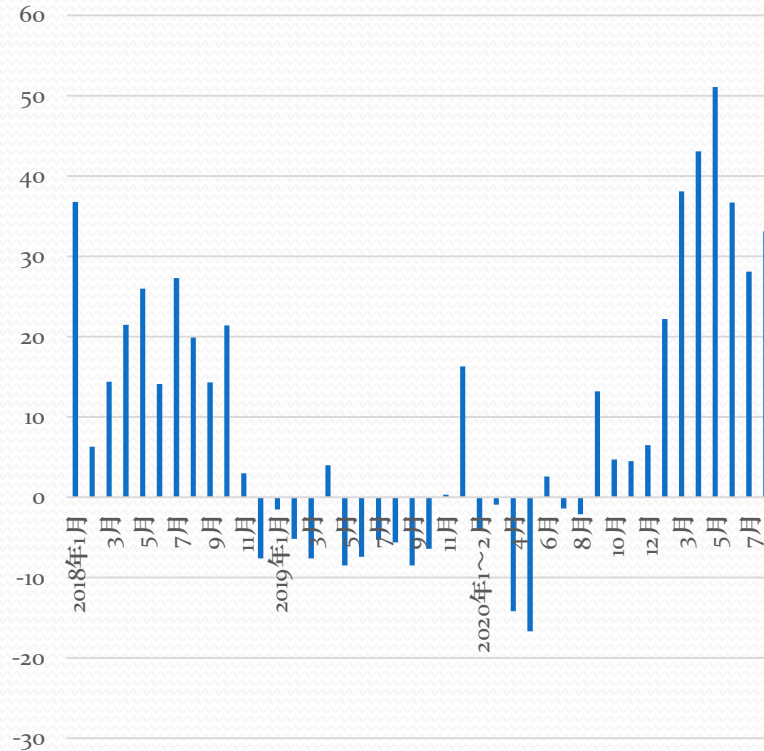
①8月の輸出の伸びは外需の回復から前年比+25.6%と高い。対米輸出+15.5%。

②8月の輸入の伸びは前年比+33.1%。内需の伸びと商品市況の需給タイトが影響。

中国のドル建て輸出(前年比、%)



中国のドル建て輸入(前年比、%)

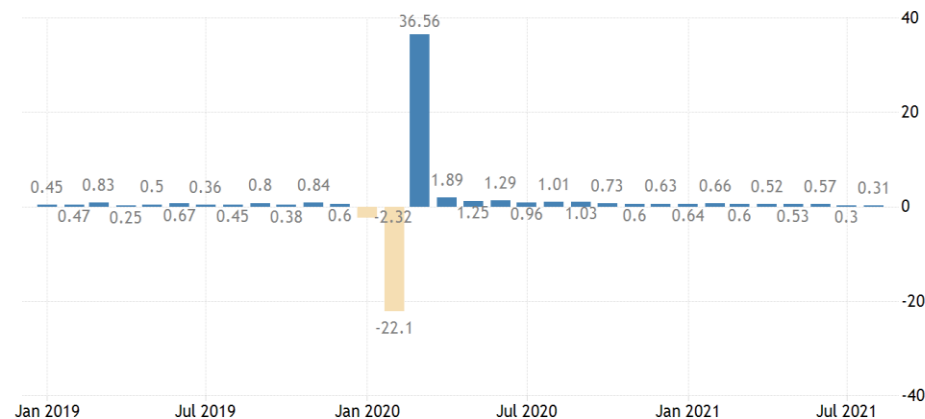


7. 中国の鋁工業生産は緩やかな伸びに戻る

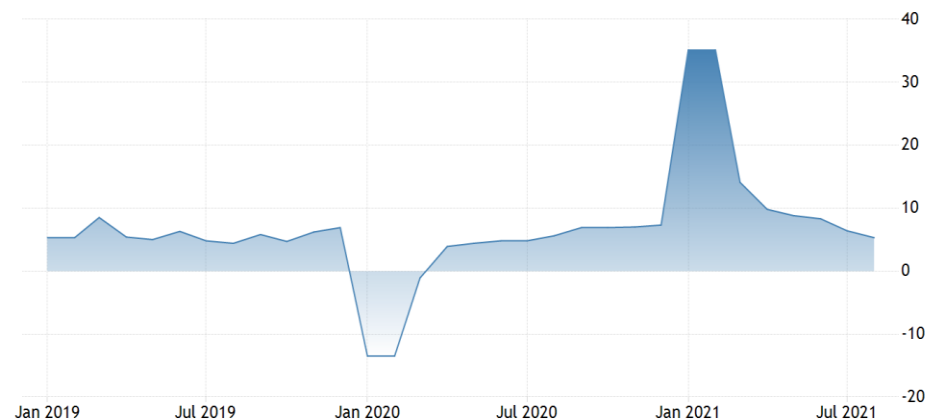
①8月の鋁工業生産の前年比(右下図)は+5.3%の伸び。前月比(右上図)は+0.31%。

②製造業の前年比は+5.5%。電気・ガス・水道は+6.3%、鋁業は+2.5%。

③食品製造は前年比+6.4%、紡績▲2.5%、化学+5.5%、医薬製造+32.9%、非金属鋁物製品+4.4%、鉄鋼▲5.3%、非鉄金属+2.8%、金属製品+11.8%、自動車▲12.6%、鉄道・船舶・航空機+1.3%、電気機械+10.3%、コンピュータ・通信+13.3%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

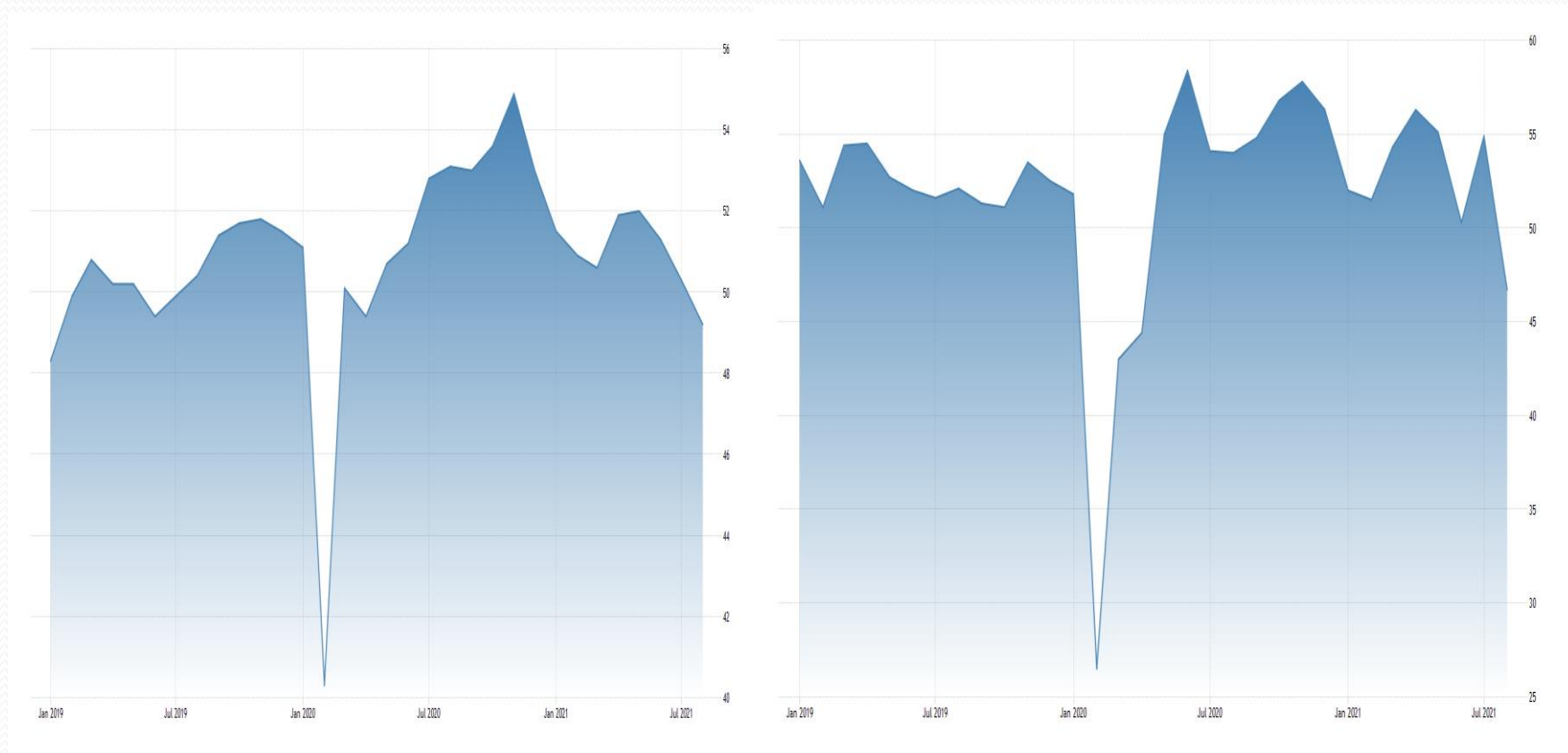


SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

8. 中国PMIは50割れで景気下降を示唆

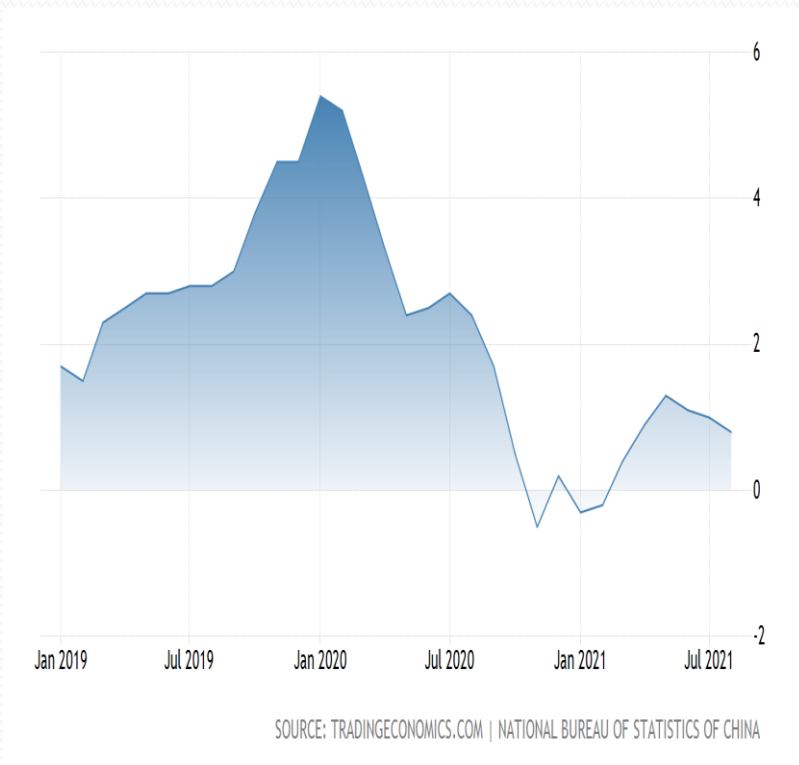
①8月製造業PMIは49.2と前月より
▲1.1ポイントの低下で50割れ。

②8月サービス業PMIは46.7と前月比
▲8.2ポイントの低下で50割れ。



9. 中国のPPIは商品市況高騰で高い伸び

①8月の消費者物価の前年比(左図)は+0.8%で豚肉価格の下落から前月を▲0.2ポイント下回る。前月比は+0.1%。



②8月の生産者物価の前年比(右図)は商品市況高騰による工場出荷価格の上昇から9.5%と前月を+0.5ポイント上回る。前月比は+0.7%。





IV 日本經濟

1. 9月29日に自民党総裁選挙が投開票

①菅総理が9月3日に退任発表



②自民党総裁選挙は河野太郎、岸田文雄、高市早苗、野田聖子の4氏が立候補、9月29日に投開票。各派閥が自主投票としているので混戦、誰が新総裁となるか読めない。



2. 日銀決定会合は現状維持を決定

①8月21～22日の日銀決定会合は前回の決定会合で決めた気候変動対応を支援する資金供給プログラムの詳細を公表した。その他の資産買入れ方針、金利政策は現状維持で変わらず。

②当面の金融政策運営について

(1) 長短金利操作

短期金利は▲0.1%、長期金利は10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう上限を設けず必要な金額の長期国債の買入れを行う。

(2) 資産買入れ方針

1. ETFとJ-REITの買入れは当面それぞれ年間12兆円、1,800億円に相当する残高増加ペースを上限に、必要に応じて、買入れを行う。

2. CP等、社債等については期限を半年延長して、2020年3月末までの間は、CP等、社債等の合計で20兆円の残高を上限に買入れを行う。

(3) 新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラムの継続(2020年3月末まで)

③気候変動対応を支援する資金供給プログラム

(1) バックファイナンス対象はグリーンローン、クリーンボンド、サステナビリティ・リンク・ローン、サステナビリティ・リンク・ボンド、トランジション・ファイナンスにかかる投融资

(2) 貸付利率はゼロ%。貸付金額は貸付限度額の範囲内で貸付先が希望する金額。



3. 4～6月期のGDPはプラスだが回復力は弱い

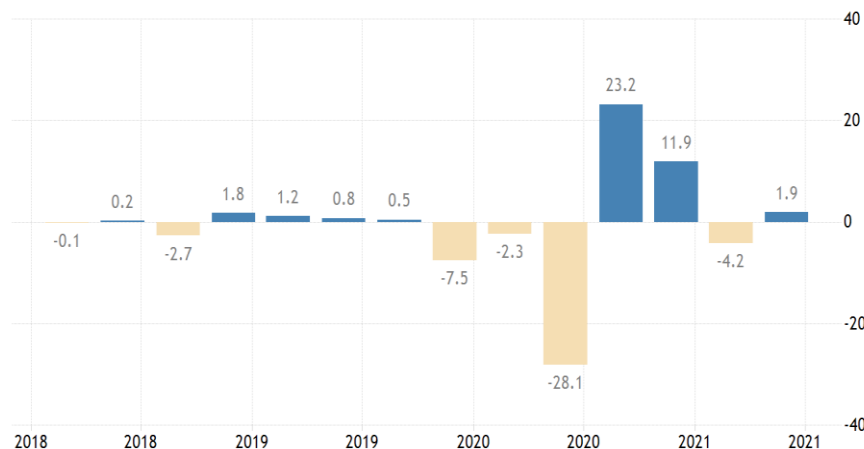
①4～6月期の実質GDP(2次速報)は前期比+0.5%、前期比年率+1.9%(右上図)のプラス成長だったが、金額は539.3兆円と2019年7～9月期の557.8兆円に戻っていない。内需の寄与度は+0.8%、外需▲0.3%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+7.6%と7四半期ぶりにプラス。

②4～6月期の名目GDPは前期比▲0.1%、前期比年率▲0.5%、前年比は+6.4%。GDPデフレーターは前期比▲0.6%、前年比は▲1.1%。

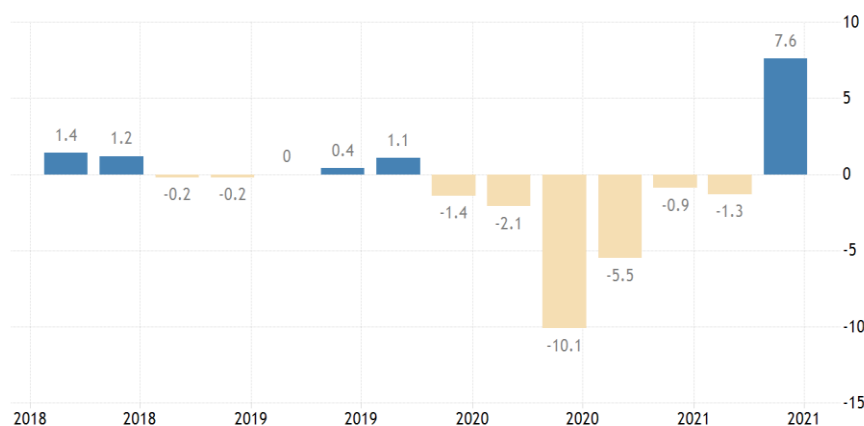
③需要項目別で民間最終消費支出は前期比+0.9%(年率+3.8%)、寄与度は+0.5%。民間企業設備は前期比+2.3%(年率+9.5%)、寄与度は+0.4%。民間住宅は前期比+2.1%(年率+8.5%)、寄与度+0.1%。民間在庫変動の寄与度▲0.3%。

④政府最終消費は前期比+1.3%(年率+5.4%)、公的固定資本形成は前期比▲1.7%(年率▲6.5%)で、政府支出合計の寄与度は+0.2%。

⑤輸出は前期比+2.8%(年率+11.8%)と4期連続のプラス、輸入は前期比+5.0%(年率+21.4%)。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN

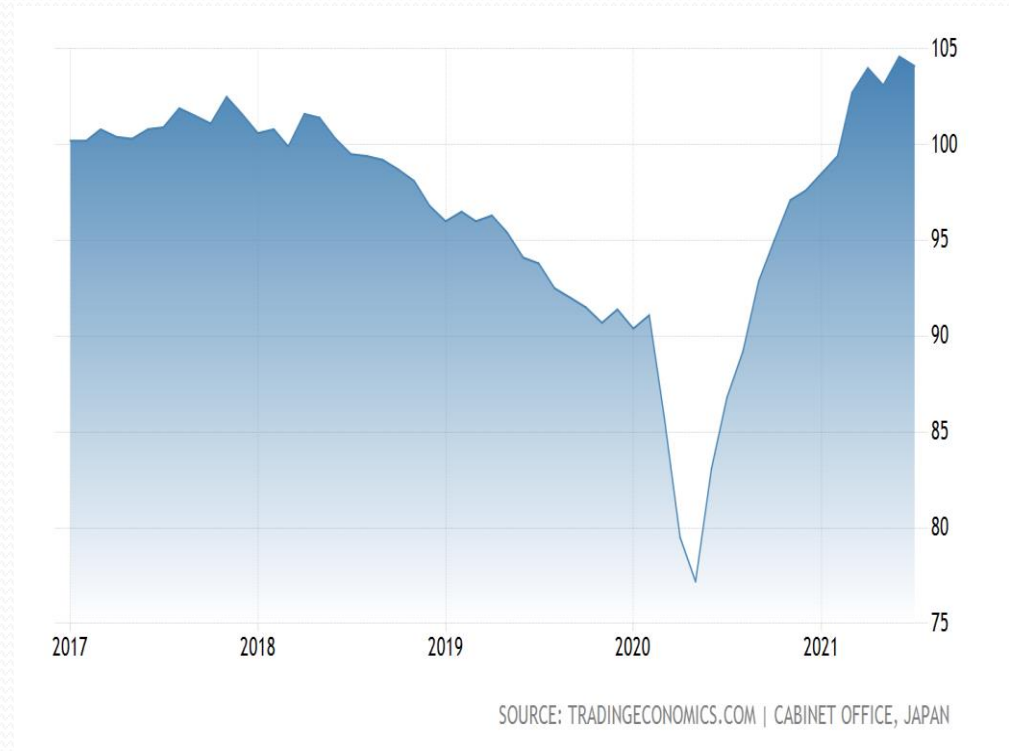
4. 景気動向指数は改善傾向が続く

①7月の先行指数速報値(右図)は104.1で、前月比▲0.5ポイントの低下。

②一致指数は94.5で前月比▲0.1ポイント。

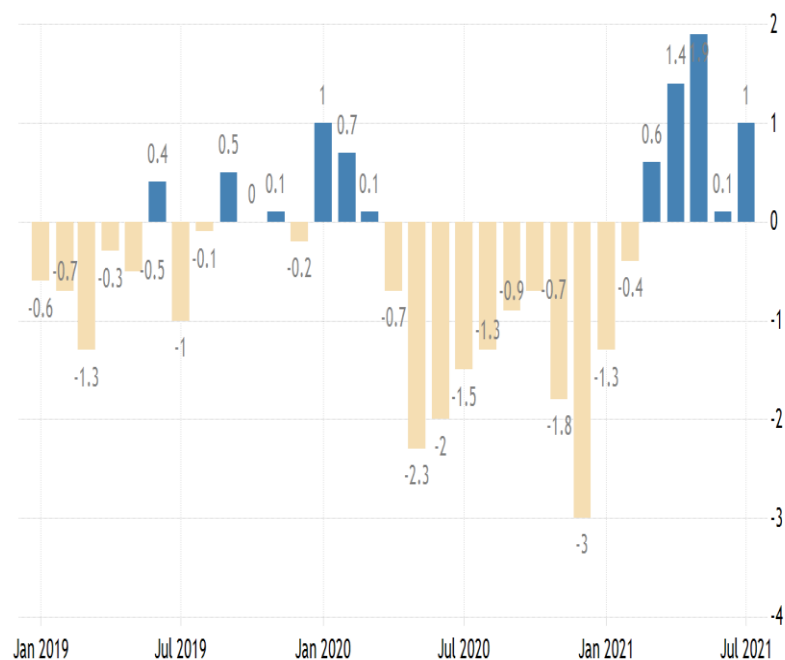
③遅行指数は93.8で前月比▲0.2ポイント。

④内閣府の基調判断(一致指数)は「改善を示している」に据え置き。



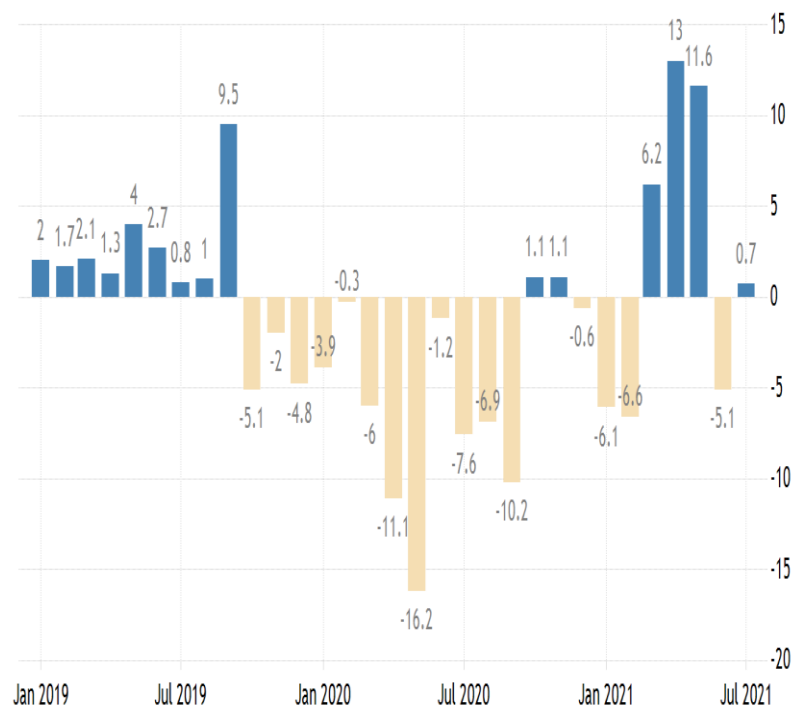
5. 日本の賃金、個人消費とも低い伸び

(1) 7月の現金給与総額の前年比は+1.0%
(下図)。所定内給与は+0.4%。所定外給与
+12.2%、特別給与+0.8%。実質賃金の伸び
は+0.7%。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF HEALTH, LABOUR AND WELFARE, JAPAN

(2) 7月の家計消費は前年比で名目+0.3%、実質
は+0.7% (下図)。

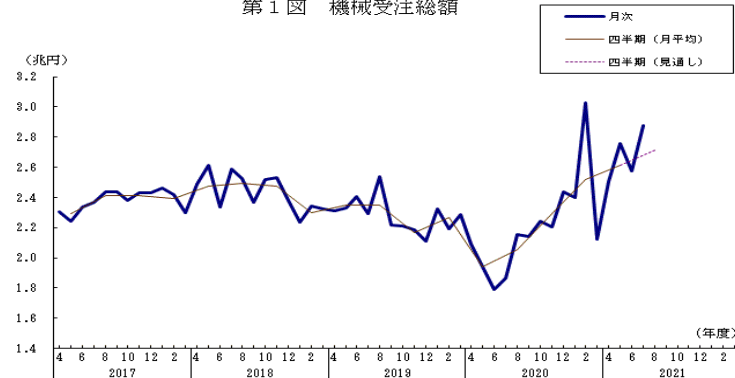


SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF INTERNAL AFFAIRS & COMMUNICATIONS

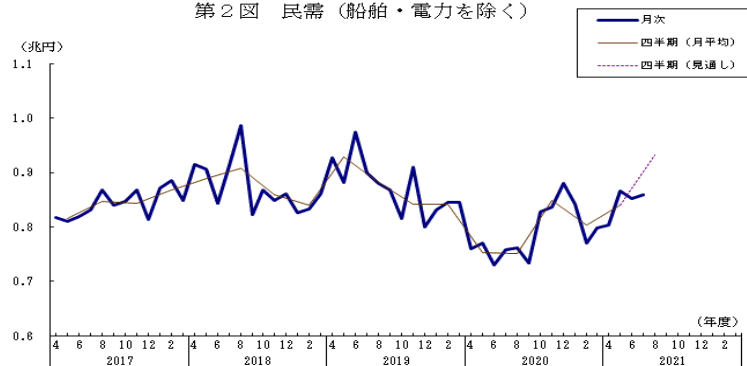
6. 機械受注は持ち直しの動き続く

- ①民間設備投資の先行指標である7月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)は前月比+0.9%。前年比+11.1%。
- ②製造業受注は前月比6.7%、前年比は+32.6%。前月比で17業種中、造船業、電気機械など8業種が増加。その他輸送機械、食品製造業など9業種が減少
- ③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比▲9.5%、前年比▲5.3%。前月比で12業種中、増加したのは不動産業など2業種で、鉱業・採石・砂利採取業、卸売業・小売業など10業種が減少。
- ④内閣府の基調判断は「持ち直しの動きがみられる」に据え置き。

第1図 機械受注総額



第2図 民需(船舶・電力を除く)



(備考)

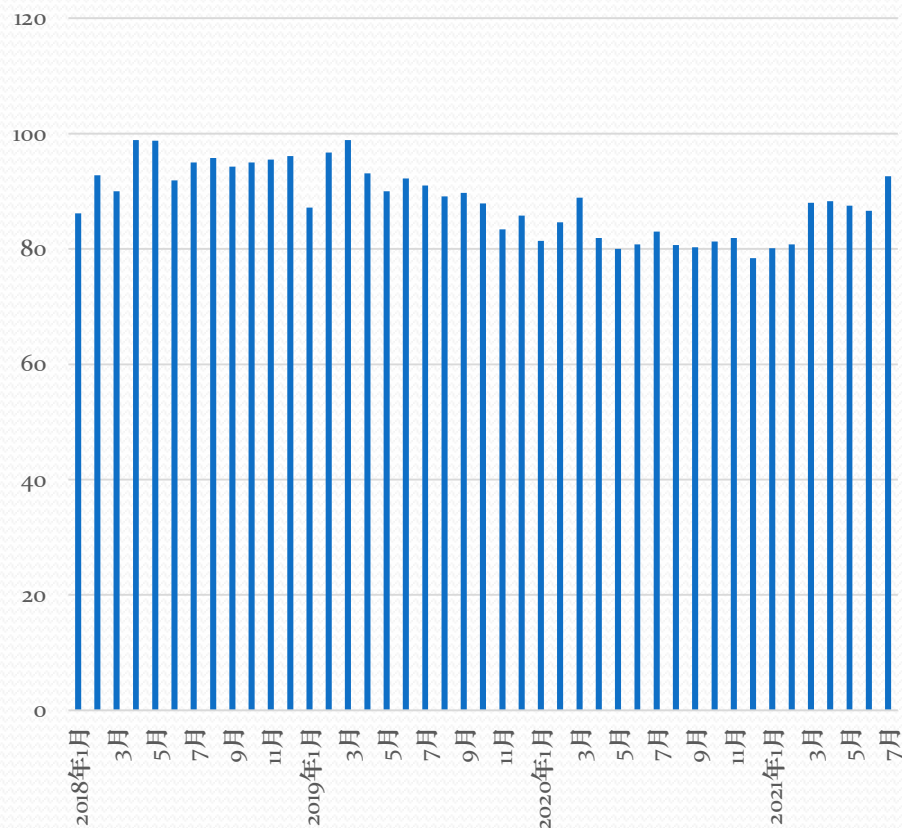
1. 四半期(月平均)は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示(例えば7～9月の月平均値は8月の位置に表示)。
2. 「2021年7～9月(見通し)」の計数は、「見通し調査(2021年6月末時点)」の季節調整値を3で割った数値。

7. 住宅着工戸数は回復傾向続く

①7月の住宅着工戸数は77,182戸で前年比は+9.9%と5ヶ月連続の増加。季調済年率で92.6万戸(右図)、前月比は+6.9%と3ヶ月ぶりの増加。

②持家は26,071戸、前年比は+14.8%と9ヶ月連続の増加。貸家は29,230戸、前年比は+5.5%と5ヶ月連続の増加。分譲住宅は21,480戸、前年比は+11.0%。分譲マンションは9,117戸、前年比は+9.2%。分譲一戸建て住宅は12,242戸、前年比は+13.1%で3ヶ月連続の増加

日本の住宅着工戸数(季調済年率、万件)

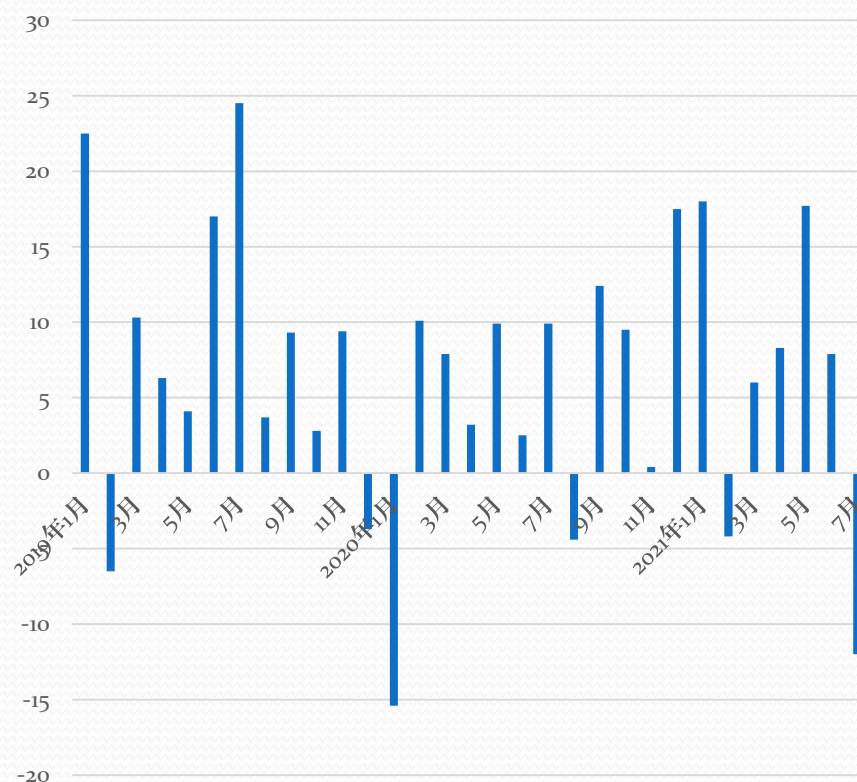


8. 公共工事受注は土木工事の減少が響く

①7月の公共工事受注は前年比▲12.0%と5ヶ月ぶりの減少。(注:4月からの推計方法の変更により、右図の伸び率のデータは連続性がない)

②工事分類別では土木工事は▲29.4%、建築工事・建築設備工事+24.9%、機械装置等工事+52.4%。

公共機関からの受注工事(前年比、%)



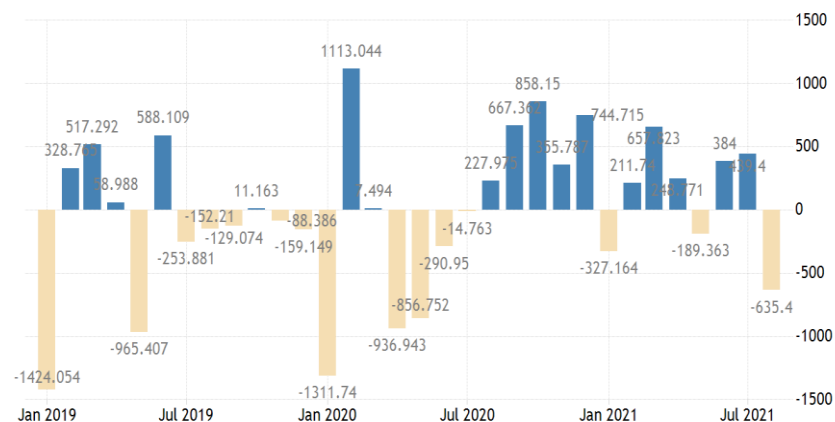
9. 原材料輸入増で8月の貿易収支は赤字転換

①8月の貿易収支は前年比▲8,633億円悪化して▲6,354億円(右上図)の赤字に転換。輸出は前年比+26.2%、金額は6兆6,058億円。数量(右下図)前年比+13.7%、価格前年比+11.1%。輸入は前年比+44.7%、金額は7兆2,411億円。数量の前年比+14.4%、価格の前年比+26.4%。

②地域別輸出でアジア向けは+26.1%(うち中国+12.6%、香港+23.4%、台湾+42.6%、韓国+31.4%、タイ+54.2%、インドネシア+100.0%、インド+56.1%)、米国+22.8%、西欧+14.1%、中東+41.7%

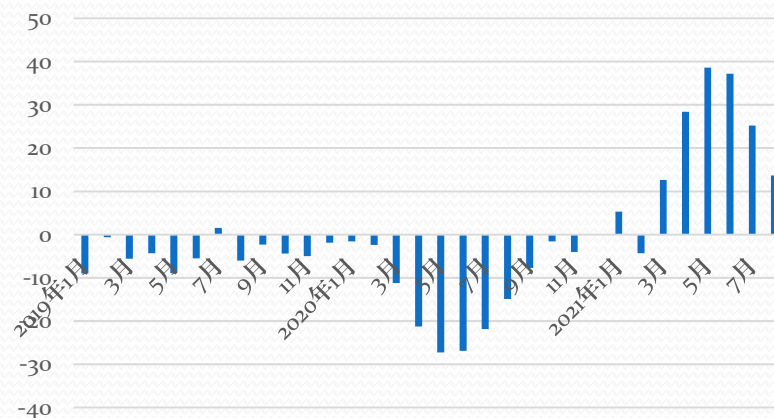
③商品別輸出は自動車+43.5%、自動車部品+60.1%、鉄鋼+83.6%、半導体製造装置+34.3%、半導体等電子部品+14.9%など多くの品目でプラスだが、乗用車▲1.5%、航空機類▲53.3%はマイナス。

④商品別輸入は鉱物性燃料+104.1%(原油及び粗油+115.6%、石油製品+80.3%、LNG+89.3%、石炭+113.2%)、鉄鉱石+177.5%、非鉄金属+111.1%、鉄鋼+104.5%が高い伸び。



SOURCE: TRADEECONOMICS.COM | MINISTRY OF FINANCE, JAPAN

日本の輸出数量(前年比、%)



10. 経常収支は貿易、所得収支改善が寄与

①7月の経常収支(右図)は前年比3,756億円黒字が拡大して、1兆9,108億円の黒字となった。

②貿易収支は前年比4,720億円黒字が拡大して6,223億円の黒字。輸出は前年比+37.5%の7兆2,203億円、輸入は前年比+29.3%の6兆5,980億円。

③サービス収支は▲1,691億円赤字が拡大して▲5,984億円の赤字。

④第一次所得収支は直接投資収益の黒字幅拡大により、+1,993億円黒字が拡大して2兆966億円の黒字。第二次所得収支は▲1,266億円赤字が拡大して▲2,262億円の赤字



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF FINANCE, JAPAN

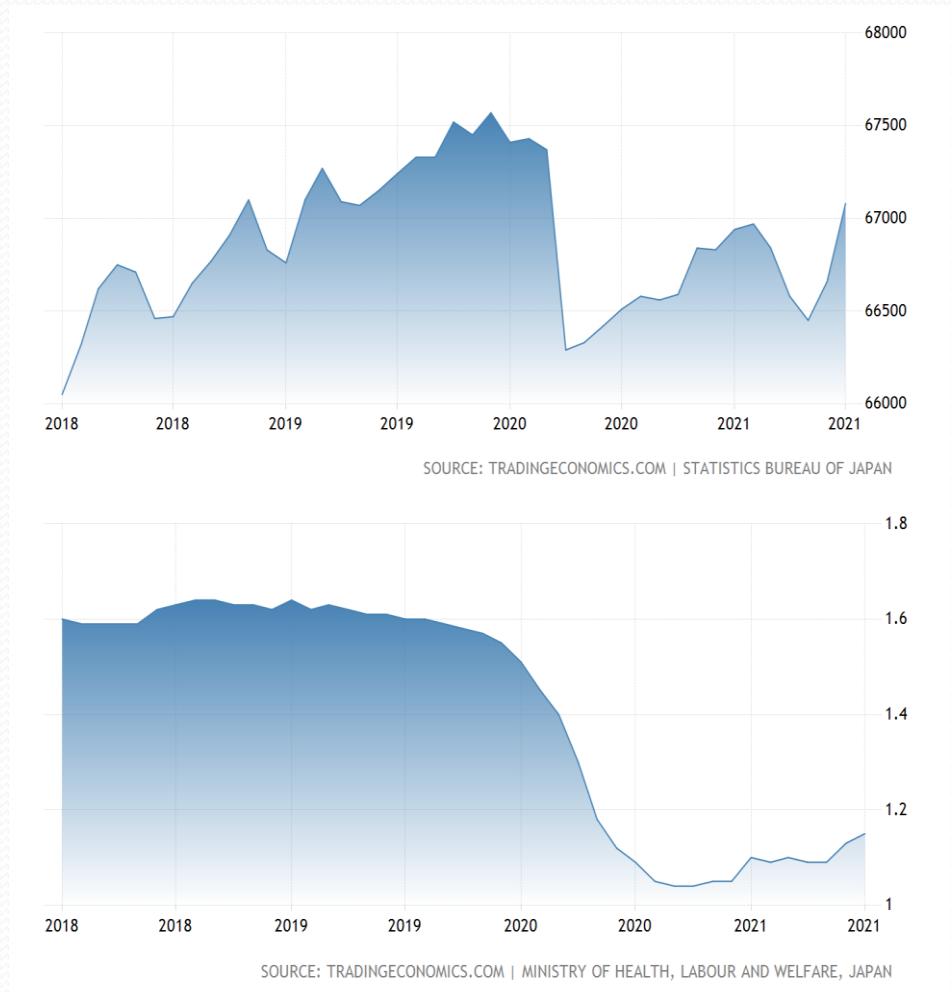
11. 日本の雇用は緩やかに回復

①7月の就業者数は原系列で6,711万人、前年比+56万人と4ヶ月連続の増加。季調済(右上図)では6,708万人で前月比+42万人と2ヶ月連続の増加。原系列で雇用者数は5,992万人、前年比+50万人で4ヶ月連続の増加。正規は3,594万人、前年比+16万人で14ヶ月連続の増加、非正規は2,062万人、前年比+19万人と4ヶ月連続の増加。

②産業別就業者の前年比では卸売業・小売業+63万人、学研究、専門・技術サービス業+23万人、金融業、保険業+11万人が増加。教育、学習支援業▲19万人、建設業▲6万人が減少。

③完全失業者数191万人で前年比▲6万人。完全失業率は2.8%と前月より▲0.1ポイントの低下。

④有効求人倍率(右下図)は1.15倍で前月より+0.02ポイント上昇。



12. 鉱工業生産の緩やかな回復が続く

①7月の鉱工業生産指数(確報)は98.1で、前月比(右上図)は▲1.5%。前年比は+11.6% (右下図)と5ヶ月連続プラス且つ前年の反動増。

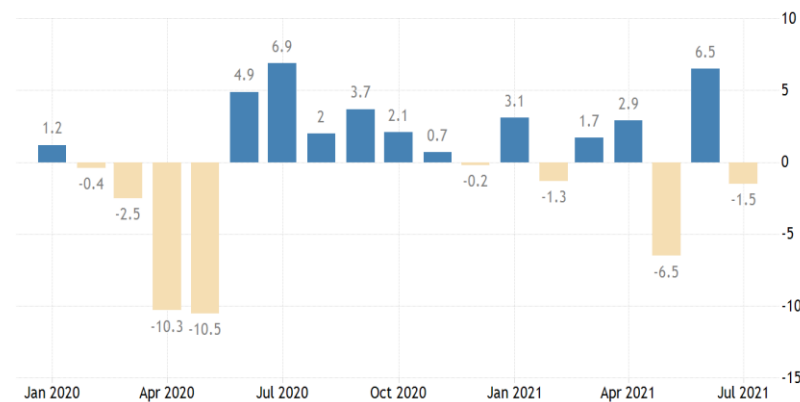
②業種別前月比で自動車工業▲3.3%、電気・情報通信機械工業▲3.8%、無機・有機化学工業▲3.9%などが低下。食料品・たばこ工業+1.1%、生産用機械工業+1.6%、パルプ・紙・紙加工品工業+5.3%などが上昇。

③業種別前年比で生産用機械工業+31.1%、鉄鋼・非鉄金属工業+29.9%、電子部品・デバイス工業+24.0%、汎用・業務用機械工業+18.1%、自動車工業+13.8%、などが上昇。

④8月の製造工業生産予測指数は前月比+3.4%の低下、9月は+1.0%の上昇を予想。

⑤設備投資の先行指標である資本財(輸送機械を除く)出荷は前月比▲0.9%、前年比+21.2%。

⑥経産省は基調判断を「生産は持ち直している」に据え置き。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF ECONOMY TRADE & INDUSTRY (METI)



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF ECONOMY TRADE & INDUSTRY (METI)

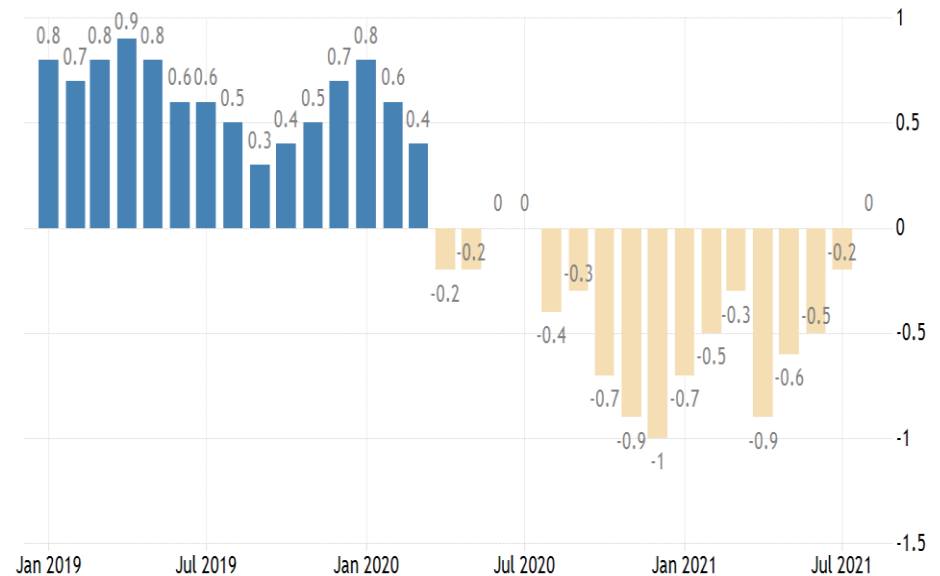
13. コア消費者物価の伸びはゼロに戻す

①8月のコア消費者物価(生鮮食品を除く総合)の前年比(右図)は0.0%とマイナスから脱却。前月比(季調済)は▲0.1%。

②総合消費者物価の前年比は▲0.4%、前月比(季調済)は▲0.2%。エネルギーの前年比は+5.5%、寄与度は+0.39%。食料の前年比は▲1.1%で寄与度は▲0.3%

③生鮮食品及びエネルギーを除く総合の前年比は▲0.5%、前月比(原数値)は▲0.3%。

④項目別前年比で上昇したのは火災・地震保険料+15.8%、ガソリン+16.9%、灯油+20.0%、宿泊料+46.6%。下落は通信料(携帯)▲44.8%など。



SOURCE: TRADINGECONOMICS.COM | STATISTICS BUREAU OF JAPAN

V マーケット動向

1. ドル円は110円近辺で一進一退の動き



2. ユーロ/ドルは欧米中銀の出口戦略で拮抗



3. 人民元は対ドルで横ばいにつづく



4. NYダウは恒大のニュースで下落



5. 日経平均は自民新総裁期待と恒大で交錯



6. 独株価 (DAX) も恒大ニュースで下振れ



7. 上海株価は恒大で神経質な動き



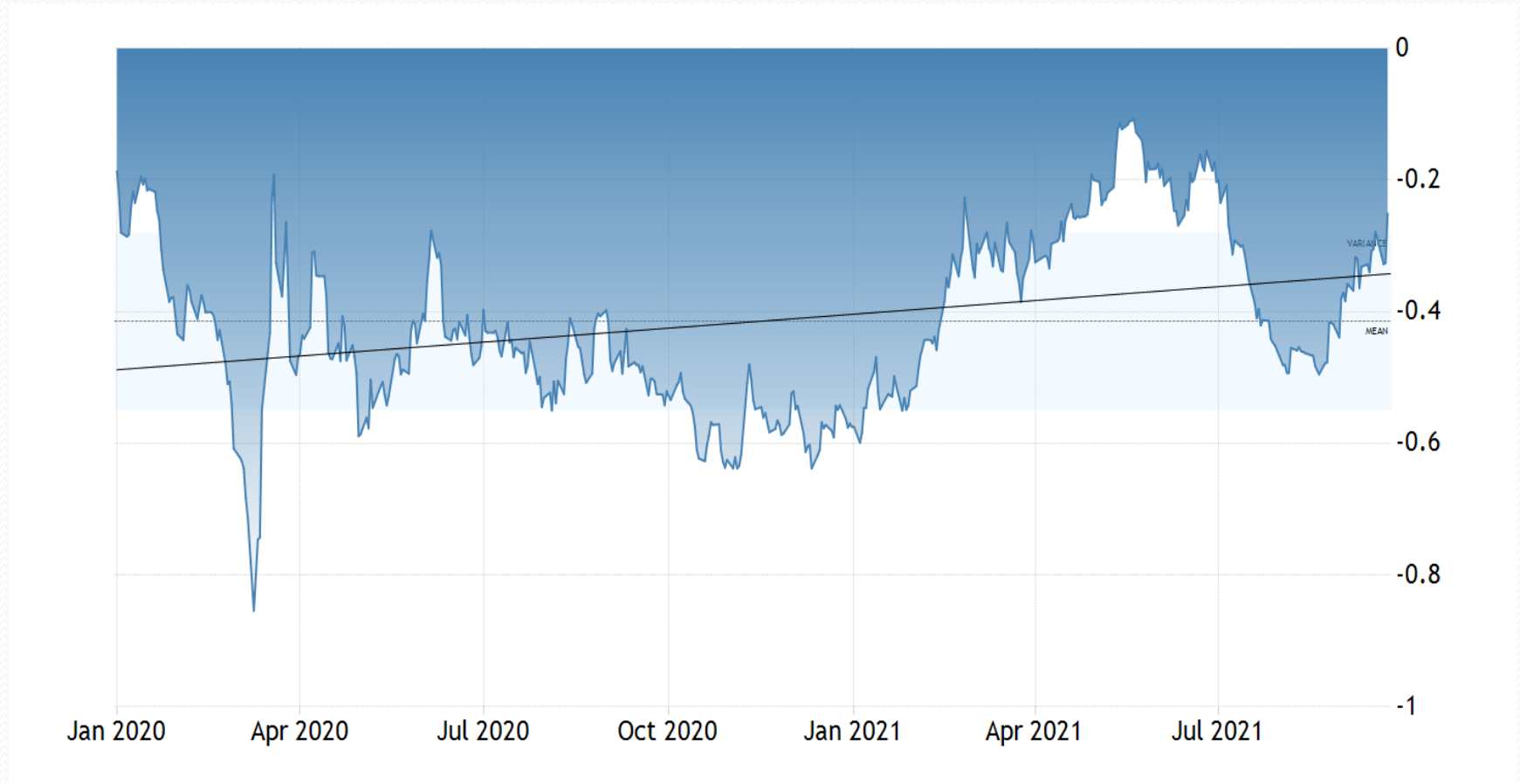
8. 米長期金利は上昇トレンドに反転



9. 日本の長期金利はゼロ近傍の動き



10. 独長期金利はマイナス金利縮小に向かう



11. 中国の長期金利は底ばいの動き



12. 原油価格(ブレント)は需給逼迫で強含み



13. 金価格は一進一退の動き





完